

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	解剖学				
担当者氏名	中谷 宣弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》

医学の最も基礎的な分野の一つである“人体の正常な構造”を学習してもらおう。本講義では細胞・組織の基礎的知識と、各臓器の基本的な肉眼像および顕微鏡像、骨格、脈管、神経の名称やつながり、走向について理解できるよう学習する。

《テキスト》

1. 坂井健雄ほか「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版
2. 牛木辰男「入門組織学 改訂第2版」 南江堂

《参考図書》

「臨床検査学講座 解剖学」医歯薬出版

《授業の到達目標》

- ①人体の構造、臓器の位置関係や大きさ、機能、特徴を把握できており、また、主要な臓器の顕微鏡像において、構成する細胞や組織について説明できる。
- ②解剖学・組織学の用語を読み書きを含めて正確に使える。

《授業時間外学修》

事前学修；初回を除き、翌週学習する項についてテキストの該当する章を読み込んでおくこと（30分程度）
 事後学修；器官系別に肉眼的、顕微鏡的特徴についてまとめてみる。配布プリントを利用して自分流の学習ノートを作成するとよい（章を終えるごとに1～2時間程度）。

《成績評価の方法》

期末試験 80%
 平常点（小テスト）20%
 〈学生へのフィードバックの方法〉
 期末試験は終了後に30分程度の講評を行う。小テストも毎終了後に出題の意図と問題の解説を行う

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーションと序論 からだの区分と名称	解剖学とは何を学ぶのか。からだの区分や方向を指す名称など
2	細胞と組織	細胞の基本構造、人体を構成する四大組織について
3	骨格系	骨の肉眼的、顕微鏡的構造。からだを構成する骨の名称と位置関係
4	筋系	骨格筋の構造や代表的な筋肉の名称など。他二種の筋（心筋、平滑筋）との顕微鏡的特徴や働きの違いについて
5	脈管系とリンパ性器官1 ～心臓と血管系～	体中に血液を循環させる心臓と血管の構造、動脈と静脈の違いや各動静脈の名称
6	脈管系とリンパ性器官2 リンパ管とリンパ性器官	リンパ液を循環させるリンパ管とはどのようなものか。大まかなリンパ管の走向とそれに付属する器官の構造と働き
7	呼吸器系	鼻孔から取り入れられた空気が肺まで運ばれるまでの経路、各部位の肉眼的、組織学的構造
8	消化器系1 ～消化管～	食べ物を運び、栄養を吸収する消化管の経路、各部位の働きや肉眼的、組織学的構造
9	消化器系2 ～肝臓、胆嚢、膵臓～	消化を助ける臓器についてその位置関係や働き、構造について
10	泌尿器系	血液をろ過し尿になるまでの経路、構造
11	生殖器系	男性生殖器と女性生殖器について両者の構造、精子、卵子の運ばれる経路
12	神経系1 ～中枢神経～	脳と背髄で構成される中枢神経について部位ごとの大まかな特徴と働き
13	神経系2 ～末梢神経～	脳神経、背髄神経に分類される末梢神経について部位ごとの大まかな特徴と働き
14	内分泌系	からだの随所に存在する内分泌器官について代表的なものの場所や構造、産生するホルモンとその働きについて
15	感覚器系	視覚器、平衡聴覚器を中心にその構造について

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	生理学				
担当者氏名	溝渕 亜矢				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。				

《授業の概要》

ヒトは、器官、組織、細胞がそれぞれ固有の機能を営みながらも、統率のとれた連携プレーで一つの個体としての生命活動を行っている。ヒトの体の正常な営みを学ぶために必要な生理学の基礎知識を学習する。

《テキスト》

1. 二宮治明「N教授の生理学講義ノート」日本医事新報社
2. 坂井健雄ほか「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版

《参考図書》

1. 「生理学」 医歯薬出版社
2. 竹内 修二 「生理学トレーニングノート 書き込み式」医学教育出版社
3. 系統看護学講座「解剖生理学」医学書院

《授業の到達目標》

1. 各器官の基本構造と機能について理解し説明できる。
2. 臓器の相互関連について理解し説明できる。

《授業時間外学修》

事前学修：テーマに沿って事前にテキストを読んでおく。
 事後学修：テキストと配布物を用いて復習を行う。特に解剖学や生物学と重複する内容については重点的に復習する事が望ましい。

《成績評価の方法》

1. 期末テスト 80%
 2. 確認テスト・提出課題など 20%
- 《試験のフィードバック方法》
 定期試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《備考》

専門用語は丸覚えせず、細胞や臓器の構造や機能について自分で描写できるようにする。
 実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	細胞、組織、器官	細胞の構造と機能、遺伝子による細胞制御、組織、器官
2	神経系	神経細胞、中枢神経系
3	神経系	末梢神経、自律神経、筋
4	感覚系	体温、体性感覚、内臓感覚
5	感覚系	特殊感覚（聴覚、前庭感覚、味覚、嗅覚）
6	内分泌系	ホルモン、内分泌器官
7	消化器系	消化器系の構造と機能
8	心・血管系	心臓の構造、刺激伝導系、活動電位
9	循環系、リンパ系	血圧、循環系
10	呼吸器系	呼吸器系
11	血液、造血器	血液組織と造血器官
12	腎臓と体液	腎臓の構造と機能、体液の恒常性
13	代謝、栄養素	代謝、ビタミン、ミネラル
14	血液成分の機能	止血、免疫
15	生殖系	女性生殖器、男性生殖器、性ホルモン

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	生化学				
担当者氏名	松村 直愛				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。				

《授業の概要》

生命活動を生体分子レベルで理解することを目的としており、タンパク質・糖質・脂質の構造、タンパク質・脂質の機能、代謝の仕組みとエネルギーやグルコースの代謝などを学ぶ。

《テキスト》

専門基礎分野「生化学」 畠山鎮次 医学書院

《参考図書》

臨床検査学講座「生化学」 阿部喜代司他 医歯薬出版

《授業の到達目標》

生体高分子（タンパク質・糖質・脂質）の構造と機能、代謝・エネルギー生産について理解している。

《授業時間外学修》

- ① 事前学修：教科書を熟読し、わからない語句の意味を調べる（60分）。
- ② 事後学修：習った範囲を復習し、確認テストに備える（120分）。

《成績評価の方法》

- ① 毎回の小テスト（20%）
 - ② 期末試験（80%）
- 《フィードバックの方法》
 期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	生体分子	生体分子の種類・生体を構成する元素・細胞の構造
2	生化学に必要な化学の基礎知識	官能基・化学結合
3	酵素	酵素の性質・反応速度論・活性の調節
4	糖質の分類・単糖類	糖質の分類・単糖の構造と性質
5	オリゴ糖・多糖類	オリゴ糖・多糖類の構造と性質
6	代謝とエネルギー生産・解糖	代謝・エネルギー生産の概要／糖質の代謝（好気呼吸）：解糖
7	TCAサイクル	糖質の代謝：TCAサイクル
8	電子伝達系・酸化リン酸化	糖質の代謝：電子伝達系・酸化リン酸化
9	糖新生	糖質の代謝：糖新生
10	脂質：脂肪酸・リン脂質	脂質の分類・脂肪酸・リン脂質・コレステロール
11	細胞膜の構造：脂質二重層	細胞膜の構造（脂質二重層）
12	タンパク質の分類	タンパク質の機能と分類
13	アミノ酸	アミノ酸の構造と性質
14	タンパク質の構造	タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造
15	タンパク質の性質	タンパク質の変性・検出法

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	病理学				
担当者氏名	椋 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 <input type="radio"/> 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。			

《授業の概要》

病理学とは、全身および各臓器における疾病の形態的異常や機能的異常を解析する学問であり、臨床医学や検査医学全般を理解するためには病理学の知識の修得は必須である。本講義では、人におこる疾病の原因、発生機序、病態、診断、治療、臓器・組織・細胞の形態学的変化について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 主要な疾患名を説明できる。
- ② 主要な疾患の発生機序や病態を説明できる。
- ③ 主要な疾患の臓器・組織・細胞形態像を説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験 80%
 小テスト 20%
 <試験のフィードバック>
 期末試験終了後に解説を行う。
 試験：60分 解説：30分

《テキスト》

「シンプル病理学」 南江堂

《参考図書》

標準臨床検査学「病理学・病理検査学」 医学書院
 Medical Technology別冊「カラー版 組織アトラスー正常と病変一」 医歯薬出版
 臨床検査学講座「解剖学」 医歯薬出版
 牛木辰男著「入門組織学」 南江堂

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の次回講義部分を読み、概要を理解する。(60分)
 事後学修：講義で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。(120分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病理学総論	病理学の意義、遺伝と発生異常
2	病理学総論	細胞障害と細胞増殖、組織・細胞の修復と再生、代謝異常
3	病理学総論	循環障害
4	病理学総論	炎症
5	病理学総論	免疫機構の異常
6	病理学総論	腫瘍
7	病理学各論	代謝異常
8	病理学各論	循環器系
9	病理学各論	呼吸器系
10	病理学各論	消化器系I
11	病理学各論	消化器系II
12	病理学各論	内分泌系
13	病理学各論	泌尿器・生殖器系
14	病理学各論	造血器系、脳・神経系
15	病理学各論	膠原病、乳腺、運動器系、皮膚系

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	血液学				
担当者氏名	三島 清司				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力) 自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。				

《授業の概要》

血液検査は、日常診療において汎用される検査の一つである。これは血液が全身を循環し病気に対する身体の反応を鋭敏に反映する為である。この講義では細胞成分（白血球・赤血球・血小板）と凝固線溶に関する基本的知識と異常値の捉え方（量的・質的）について学習する。また各種の検査法についても学習する。5回以上、アクティブラーニンググループを使用し、集団討論を取り入れる。

《授業の到達目標》

- ①専門用語（日本語と英語）を理解し記憶している。
- ②各種血球の形態特徴と機能を理解している。
- ③凝固・線溶の機序と制御機序を理解し記憶している。

《成績評価の方法》

期末試験（80%）

小試験（20%）

《試験のフィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

臨床検査学講座「血液検査学」 医歯薬出版
「病気がみえる No. 5 血液」 メディックメディア

《参考図書》

新病態生理でできた内科学「5 血液疾患」医学教育出版社
小郷正則「実践人体血液検査」ふくろう出版

《授業時間外学修》

事前学修：授業警戒の学習内容に記載された語句の意味を調べておく。（20分程度）

事後学修：授業で習った用語・機能・機序について積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通し、説明できるまでしておく。（60分程度）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	総論	血液の成分・血液量・血球の分化成熟などの基礎的知識
2	赤血球	産生と崩壊・形態と機能
3	ヘモグロビン	ヘモグロビンの構造と機能
4	鉄代謝	ヘモグロビン代謝
5	白血球	産生と崩壊・形態と機能
6	顆粒球	好中球・好酸球・好塩基球
7	単球・リンパ球	単球・リンパ球
8	血小板	産生と崩壊
9	血小板	形態と機能
10	止血機構	血管と止血・血小板の機能
11	血液凝固	機序 第1相
12	血液凝固	機序 第2相・第3相
13	線溶系	機序と制御機能
14	凝固・線溶の検査法と分子マーカー	凝固・線溶の検査法と分子マーカー
15	細胞表面マーカー	細胞表面マーカー・染色体

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	臨床化学				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解)基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。			

《授業の概要》

臨床化学は体液（血液・尿・髄液・穿刺液等）や便・組織等の化学物質を分析することにより、病気の診断・治療効果の判定・予後の推定など病態の評価をする学問である。本講義ではその化学検査の基礎知識と各種分析方法について学ぶ。

《テキスト》

「臨床検査学講座 臨床化学検査学」 医歯薬出版
配布プリント

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ①単位の変換、モル濃度、吸光度を用いた計算ができる。
- ②終点分析法、初速度分析法が説明できる。
- ③酵素活性値の定義を説明できる。
- ④酵素反応での基質と酵素の関係を表す式、グラフが書ける。

《授業時間外学修》

事前学修：学習内容の単語を教科書で調べる（10分）
事後学修：授業内容を課題プリントで復習。（30分）

《成績評価の方法》

1. 試験 90%
 2. 平常点(授業態度・小テスト) 10%
- 《試験のフィードバックの方法》
期末試験（60分）の後に解説（30分）を行う。

《備考》

講義をしっかりと聞いた後、すぐに課題をするとポイントがわかり理解度が上がります。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床化学分析の目的	化学的診断学への応用
2	臨床化学分析の基本	標準物質と分析の標準体系、単位
3	精度管理Ⅰ	基準範囲の設定、精密さ、正確さ
4	精度管理Ⅱ	測定を変動させる因子
5	精度管理Ⅲ	精度管理の手法と評価
6	分光光度法Ⅰ	吸光度について、分光光度計の原理
7	分光光度法Ⅱ	終点分析法
8	分光光度法Ⅲ	初速度分析法、定時分析法
9	分光光度法Ⅳ	化学的分析法と酵素的分析法
10	分光光度法Ⅴ	酵素活性値の測定
11	炎光光度法、原子吸光光度法ほか	炎光光度法、原子吸光光度法、イオン選択電極法
12	免疫学的検査法	比濁法、比ろう法、酵素免疫測定法
13	電気泳動法	蛋白質の性質と電気泳動の原理
14	クロマトグラフィー	原理と種類
15	POCT、その他の検査法	POCT の定義と検査の種類、まとめ

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	臨床検査基礎実習			
担当者氏名	椋 清美、岡村 美和、三島 清司、石河 健、溝渕 亜矢			
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解)基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ○ 2-67 (技能)検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 			

《授業の概要》

臨床検査ではさまざまな機器、器具を利用して検査を行う。各専門分野の実習が始まる前に、基礎的な機器・器具の操作法、顕微鏡での細胞や組織の見方などを修得する。また、講義で学ぶ基礎的な内容を実習を通して理解を深める。

《テキスト》

臨床検査学講座「検査機器総論」医歯薬出版
臨床検査学講座「血液検査学」医歯薬出版
牛木辰夫「入門組織学改訂版第2版」南江堂

《参考図書》

三輪史郎「血液細胞アトラス」文光堂

《授業の到達目標》

- ①光学顕微鏡のメカニズム及び使用法が理解できる。
- ②組織標本により主要臓器の特徴的形態が理解できる。
- ③血液標本により主要細胞の特徴的形態が理解できる。
- ④心電図検査・肺機能検査により生理機能検査の特徴が理解できる。
- ⑤臨床化学検査の基礎的な操作法が理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を調べておくこと。(20分程度)
事後学修：実習で学んだ語句等を調べて、レポートに書き加える。(20分程度)

《成績評価の方法》

実習態度 20%、レポート(スケッチ) 80%
《レポートへのフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	顕微鏡の使用法	光学顕微鏡の使用法(コンデンサー絞りと像の見え方の関係を詳しく体験、油浸レンズの使用法など)
2	血液細胞の観察	血液細胞の観察(赤血球・血小板)・スケッチ
3	血液細胞の観察	血液細胞の観察(白血球)・スケッチ
4	生理機能検査の基礎1	医療機器の使用法(電気生理)
5	生理機能検査の基礎2	医療機器の使用法(画像検査)
6	実習基礎操作1	ピペットの使い方
7	実習基礎操作2	試薬の調整法
8	組織標本の観察	組織標本を観察し、細胞の形と種類を理解する
9	組織標本の観察	消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系・神経系の組織標本を観察①
10	組織標本の観察	消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系・神経系の組織標本を観察② 試験：鏡検
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	荒谷 千登美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 3-71 (態度と志向性) 医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 			

《授業の概要》

公衆衛生とは、組織化された地域社会の努力により、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学であり、技術である。環境とのかかわりの中で人の生から死に至るあらゆる過程が含まれ医学はもとより統計学、疫学、微生物学、免疫学、各種保健等広範な知識を洞察する学問である。これら複雑で膨大な情報の中から国民に正しい健康情報を提供できる専門職としての臨床検査技師を目指す。

《テキスト》

臨床検査学講座「公衆衛生学」医歯薬出版
「公衆衛生がみえる」メディックメディア

《参考図書》

ポケットマスター臨床検査知識の整理 公衆衛生学/関係法規
臨床検査技師教育研究会編 医歯薬出版株式会社

《授業の到達目標》

- ① 疾病の要因と予防が説明できる。
- ② 感染症の原因と予防対策を理解している。
- ③ 環境と健康のかかわりを理解している。
- ④ 産業と疾病のかかわり及び予防対策が説明できる。
- ⑤ 各種保健等広範な知識を身に付け、今後社会人として活用出来るようにする。

《授業時間外学修》

事前学修：次回のテーマのテキストを読む (30)
事後学修：小テストの復習をする。(20分)

《成績評価の方法》

期末試験 60%
平常点(小テスト) 40%
《試験のフィードバック》
試験60分 解説30分 試験後に解説をする。

《備考》

健康や保健に関する出来事に目を向け、情報を収集する。環境問題に関心や疑問を持ち解決方法を考える。公衆衛生に関し自分にできることを考え実践する。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	公衆衛生学総論	公衆衛生の意義と使命、健康の概念と予防医学、人口問題
2	生活環境・公害	飲料水、水質基準、下水、廃棄物、室内環境、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動、食品公害
3	衛生統計	人口静態統計、人口動態統計、生命表、粗死亡率、年齢調整死亡率、乳児死亡率、平均寿命と平均余命
4	疫学Ⅰ	疫学の概念、疫学調査方法
5	疫学Ⅱ	疾病統計罹患率、有病率、検査の指標とスクリーニング、予防医学
6	感染症Ⅰ	感染症の定義と病原体、感染源(病原巣)、感染経路、感受性、免疫、流行要因
7	感染症Ⅱ	感染症の類型、主要感染症と予防対策
8	栄養と食品衛生①栄養と健康	健康管理、健康増進、生活習慣病栄養と健康、食中毒、食品化学
9	栄養と食品衛生②	食中毒と予防
10	母子保健・学校保健	保健管理、母の健康、出産、新生児・乳児・小児の健康、死産、学校における感染症、学校安全
11	産業保健	労働環境、職業病、職業病の予防
12	成人保健	生活習慣病、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、予防と早期発見・早期治療
13	高齢者保健・精神者保健・介護保健	老人保健、精神保健、介護保険
14	衛生行政・社会保障	衛生行政組織、保健所、医師法、医療法、社会保障、医療保険
15	総括と復習	補足、確認テストの復習など

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	公衆衛生学実習				
担当者氏名	藤井 仁人、荒谷 千登美				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 <input type="radio"/> 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 <input type="radio"/> 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。				

《授業の概要》

I 公衆衛生実習は単にデータを得るだけでは実習の目的を達したとは言えない。データから考えられる公衆衛生的な背景に論及し、考察することが必要である。したがって、与えられた課題結果から考察すべき公衆衛生的背景を理解して実習に臨む。

II 細菌学的手法を用いて、飲料水・食品・環境中の細菌や真菌を培養し、汚染度を調べて考察する。

《授業の到達目標》

- ① 実習で得られた結果から、どのようなことが考えられるか、影響を与えた条件、因子は何かなどを十分に考え、文献調査から知識を得ながら、考察できる。
- ② 微生物を扱う実習室での感染防止技術が身に付いている。

《成績評価の方法》

1. 平常点 (実習態度) 30%
2. レポート (提出状況、内容) 70%

《評価フィードバックの方法》

レポートに点数とコメントを記載し、返却する。

《テキスト》

臨床検査学講座「公衆衛生学」第14章 実習 (医歯薬出版) 用意した実習プリント

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学修》

事前学修：予定されている実習内容の理解に努める。(15分程度)

事後学修：レポートの作成(30分程度)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	環境の細菌①	滅菌法。手指消毒。
2	環境調査①	実習説明(配布する実習冊子の説明)
3	環境調査②	測定方法および試薬の確認
4	環境調査③	水質・大気・環境・文献調査-1(各班に分かれ順次測定)
5	環境調査④	水質・大気・環境・文献調査-2(各班に分かれ順次測定)
6	環境調査⑤	水質・大気・環境・文献調査-3(各班に分かれ順次測定)
7	環境調査⑥	水質・大気・環境・文献調査-4(各班に分かれ順次測定)
8	環境調査⑦	実習のまとめとプレゼンテーション資料作成(班ごとに作成)
9	環境調査⑧	文献調査プレゼンテーション資料作成(班ごとに作成)
10	環境調査⑨	実習のプレゼンテーション(班ごとに発表)
11	環境調査⑩	文献調査のプレゼンテーション(班ごとに発表)
12	環境の細菌②	落下菌数、付着菌数
13	環境の細菌③	食品中の細菌数
14	環境の細菌④	飲料水中の細菌数
15	環境の細菌⑤	大腸菌群の検査

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	保健医療福祉概論				
担当者氏名	森田 益子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 <input type="radio"/> 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 <input type="radio"/> 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 <input checked="" type="radio"/> 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。			

《授業の概要》

少子高齢化に伴い、医療to福祉が重視されてきている。医療は疾病の中心であるが、福祉はいかに健康を維持・管理するか、社会・国家的レベルの社会保障制度、医療法、医療提供体制としての医療施設の種類の種類など、新しい見方が必要になってきた。そのためにまず、福祉の発展の歴史と定義、医の倫理、患者の心理など医療人が理解しておかなければならない基礎知識を、社会保障制度などの諸制度に加える。

《授業の到達目標》

- ①保健・医療・福祉の発展の歴史と定義を理解する。
- ②医療に従事する人の職種と資格を理解する。
- ③医療保険制度・社会保障制度等の動向を理解する。
- ④患者の心理をよく理解し医療従事者としての心構えを養う。

《成績評価の方法》

筆記試験 (90%)
 平常点(受講態度等) (10%)
 <フィードバックの方法>
 試験60分 解説30分 試験後に解説をする。

《テキスト》

臨床検査学講座「保健医療福祉概論」(医歯薬出版)

《参考図書》

適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修：次回のテーマのテキストを読む(20分)
 事後学修：講義のテーマに沿った最近の話題、ニュースなど情報を収集する。(20分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	保健医療福祉①	医学の歴史
2	保健医療福祉②	病院の各部門とその役割
3	保健医療福祉③	医療制度
4	保健医療福祉④	医療提供の実際
5	保健医療福祉⑤	社会保障制度と医療財政
6	保健医療福祉⑥	病院医療の質の維持と向上
7	保健医療福祉⑦	患者の心理
8	保健医療福祉⑧	医の倫理と医療従事者の心構え
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	情報科学実習				
担当者氏名	高村 武彦				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ○ 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 				

《授業の概要》

パーソナルコンピュータ(PC)の操作になれ、日常的に多く使用されているメールやブラウザ(インターネット)また、医療現場に必要な数値処理するための表計算ソフトや研究発表のためのプレゼンテーションソフトなどの操作を習得する。

《テキスト》

- ①臨床工学講座 医用情報処理工学 菊池・戸畑他 医歯薬出版
- ②必要に応じて配布プリントがある。

《参考図書》

- ①臨床工学講座 医用電子工学 中島・氏平他 医歯薬出版
- ②臨床検査講座 情報科学 松戸 医歯薬出版
- ③臨床工学講座 医用システム・制御工学 嶋津・堀内 医歯薬出版

《授業の到達目標》

- ①必要なソフトウェアを利用して情報のやり取りができる。
- ②表計算ソフトを使って数値・図表処理ができる。
- ③プレゼンテーションソフトを使って表現ができる。
- ④検定試験に合格ができるレベルに到達する。

《授業時間外学修》

パーソナルコンピュータ(PC)を頻繁に利用し慣れておくこと。
 事前学修：教科書を読んでおくこと(20分程度)。
 事後学修：教科書の演習問題を反復練習する(60分程度)。

《成績評価の方法》

- ①期中に実施されるレポート課題(10%)
 - ②平常点(実習態度、90%)
- 《学生へのフィードバックの方法》
 レポート課題提出後に説明をする。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに① はじめに②	ネットワーク、サーバーの使い方 自己紹介
2	PCの基本的操作①	パーソナルコンピュータ(PC)の操作 PCの操作・設定
3	PCの基本的操作②	メールの設定、ブラウザの設定など
4	MOS対策 第1回	Wordの基本操作：図形や図表を使った文書の作成 写真を作った文書の作成
5	MOS対策 第2回	Wordの基本操作：差し込み印刷 長文の作成 文書の校閲
6	MOS対策 第3, 4回	Wordの基本操作：Excelデータを利用した文書の作成 便利な機能
7	MOS対策 第5, 6回	Excelの基本操作：ワークシートやブックの作成と管理 セルやセル範囲のデータの管理
8	MOS対策 第7回	Excelの基本操作：テーブルの作成 数式や関数を使用した演算の実行
9	MOS対策 第8回	Excelの基本操作：数式や関数を使用した演算の実行 グラフやオブジェクトの作成
10	MOS対策 第9回	PowerPointの基本操作：プレゼンテーションの作成と管理
11	MOS対策 第10, 11回	PowerPointの基本操作：テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 表、グラフ、スマートアート、メディアの挿入
12	MOS対策 第12回	PowerPointの基本操作：画面の切り替えやアニメーションの適用 複数のプレゼンテーションの管理
13	MOS対策①②	Word, Excel, PowerPointの総合的な操作
14	MOS対策③④	Word, Excel, PowerPointの総合的な操作
15	MOS対策⑤	Word, Excel, PowerPointの総合的な操作

《専門教育科目 専門》

科目名	血液検査学				
担当者氏名	三島 清司				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ○ 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。				

《授業の概要》

前期の血液学を基礎として、血液疾患の基本的概念を理解する。血液疾患に関わる基礎的知識と異常値の捉え方(量的・質的)についても学習する。

また、血液疾患の鑑別に必要とされる検査法について学習する。

《授業の到達目標》

- ①各血液疾患名(日本語・英語)の理解している。
- ②各血液疾患の概要と検査所見の把握をしている。

《成績評価の方法》

期末試験(80%)

小試験(20%)

《試験のフィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

臨床検査学講座「血液検査学」 医歯薬出版
 「病気がみえる No. 5 血液」 メディックメディア

《参考図書》

岡田定「誰も教えてくれなかった血算の読み方・考え方」医学書院
 村川裕二「新病態生理でできた内科学 5血液疾患」医学教育出版
 小郷正則「実践人体血液検査」ふくろう出版

《授業時間外学修》

事前学修：授業計画の学習内容に記載された語句の意味を調べておく。(20分程度)

事後学修：授業で習ったことを復習し、疾患の概要と所見を自学自習する。(60分程度)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	赤血球	赤血球系の基準範囲
2	赤血球の異常	赤血球形態の異常
3	赤血球の異常	小球性低色素性貧血
4	赤血球の異常	正球形正色素性貧血
5	赤血球の異常	大球形正色素性貧血・赤血球増加症
6	白血球の異常	白血球の形態異常と異常血球
7	白血球の異常	白血球機能異常症・白血球増加症・白血球減少症・リンパ球の異常
8	染色法	普通染色・特殊染色
9	白血病	急性白血病(骨髄性)・FAB分類
10	白血病	急性白血病(リンパ性)・新WHO分類
11	白血病	慢性白血病・特殊な白血病
12	骨髄系腫瘍	骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群
13	止血機構の異常	血小板の異常による出血性素因
14	止血機構の異常	凝固・線溶因子の異常
15	止血機構の異常	血管の異常・血栓性素因

《専門教育科目 専門》

科目名	血液検査学実習				
担当者氏名	三島 清司、石河 健				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ○ 2-67 (技能) 検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

血液検査の基本である、採血から血算、血液塗抹標本の作製までの一連の手技をひと通りできるように習熟する。基礎検査における検体はすべて学生同士が採血したものを扱うことで採血行為にも慣れ、実際の医療現場でもある程度経験した状態で臨めるようになってもらう。また、末梢血、骨髓標本における正常細胞を鑑別できるようになり、最終的に異常細胞を見つけるための基礎力をつけることを目標とする。

《授業の到達目標》

- ① 静脈採血・出血時間・血液塗抹標本作成・普通染色を習得している。
- ② 各種検査法の臨床的意義を理解している。
- ③ 血液細胞の特徴を理解している。
- ④ 問題点を自ら見つけ、解決方法を考察することができる。

《成績評価の方法》

1. レポート (60%)
 2. 実習態度 (40%)
- 《レポートへのフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける。

《テキスト》

「実践人体血液検査 改訂第2版」ふくろう出版
臨床検査学講座「血液検査学」医歯薬出版株式会社

《参考図書》

三輪史朗「血液細胞アトラス」文光堂
臨床検査学実習書シリーズ「血液検査学実習書」医歯薬出版株式会社

《授業時間外学修》

事前学修：実習用の配付プリントを読み、原理・方法・操作法・意義を理解してから実習に臨む。(20分程度)
事後学修：実習で学んだ語句等を調べ、また疑問点を書き出し、考察する。(30分程度)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	赤血球系の基準範囲	採血トレーニング(模擬血管) シリンジ法 自動血球測定機法
2	赤血球系の基準範囲 赤血球形態の異常	採血トレーニング(模擬血管・静脈血) シリンジ法、自動血球測定機法 血液塗抹標本作成
3	白血球の形態異常と異常 血球	採血トレーニング(模擬血管・静脈血) シリンジ法 目視算定法血球算定(赤血球、白血球、ヘマトクリット)、自動血球測定機法
4	普通染色・特殊染色	血液塗抹標本(スメア)の作製と普通染色(ロマノフスキー染色)、ペルオキシダーゼ染色
5	白血球機能異常・白血球 増加症・白血球減少症	血液塗抹標本(スメア)の作製と普通染色、超生体染色(網赤血球) 白血球スケッチ、血小板数測定(目視法)、血液疾患症例の末梢血・骨髓標本観察
6	小球性低色素性貧血 正球性正色素性貧血	血液疾患症例の末梢血・骨髓標本観察、白血球スケッチと白血球百分率 アルカリフォスファターゼ染色
7	AML・FAB分類、A L L	血液疾患症例の末梢血、骨髓標本のスケッチと観察 非特異的エステラーゼ染色
8	慢性白血病・特殊な白血 病、骨髓増殖性疾患	血液疾患の症例検討、骨髓、末梢血標本とデータから総合的に疾患名を推測する
9	血小板の異常による出血 性素因	出血時間、凝固時間、血餅退縮能、血小板粘着能、PT、APTT、フィブリノゲン定 量
10	凝固線溶因子の異常 血管の異常・血栓性素因	出血時間、凝固時間、血餅退縮能、血小板粘着能、PT、APTT、フィブリノゲン定 量
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	一般検査学				
担当者氏名	松村 直愛				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎	1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。		
		◎	1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。		
		◎	1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。		

《授業の概要》

まず、検査を行う上で必要な検体の取り扱いなど基本的なことを学習する。さらに、専門的検査の前のスクリーニング的な役割を果たす一般検査について、検査法、意義、疾患との関連を学習しその重要性を理解する。

《テキスト》

「臨床検査学講座 一般検査学」(医歯薬出版) 各種プリント

《参考図書》

「一般検査技術教本」 日本臨床検査技師会
「尿沈渣検査法2010」 日本臨床検査技師会

《授業の到達目標》

- ① 健常人の尿、髄液の一般性状を理解している。
 - ② 尿試験紙検査の各項目の目的、原理を理解している。
 - ③ 尿沈渣成分の臨床的意義を理解している。
 - ④ 免疫学的便潜血検査の原理、特徴、意義を理解している。
- 《卒業認定・学位授与との関連》
臨床検査技師国家試験に合格するために必要な知識と技術を習得している。

《授業時間外学修》

準備学習：授業範囲の教科書を読む(30分)
復習：授業範囲の配布課題をする(30分)

《成績評価の方法》

1. 試験の成績 (80%)
 2. 小テスト、課題 (20%)
- 《試験のフィードバックの方法》
期末試験(60分)の後、解説(30分)を行う。

《備考》

講義をしっかりと聞いた後、課題をすると理解度が上がります。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	尿の生成	腎・尿路系の解剖
2	尿検査①	尿の一般的な性状、蛋白
3	尿検査②	糖、ケトン体
4	尿検査③	ウロビリニン体
5	尿検査④	ビリルビン
6	尿検査⑤	潜血反応
7	尿検査⑥	その他の腎機能検査
8	糞便検査	便の性状、便潜血検査
9	髄液検査	一般性状、疾患とデータ
10	穿刺液検査他	穿刺液の種類、性状
11	尿沈渣①	標本作製法、染色、鏡検の仕方、健常人の尿沈渣について
12	尿沈渣②	血球系：白血球、赤血球
13	尿沈渣③	上皮系：扁平上皮細胞、尿路(移行)上皮細胞、尿細管上皮細胞、その他
14	尿沈渣④	円柱、結晶、細菌、真菌、原虫
15	尿沈渣⑤	異型細胞、その他(アクティブラーニング：ディスカッション)

《専門教育科目 専門》

科目名	一般検査学実習				
担当者氏名	松村 直愛、椛 清美				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 2-67 (技能) 検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。				

《授業の概要》

臨床検査における一般検査とは、各専門分野の前に行う基礎的な検査として位置づけられており、手技が簡単で迅速にできる検査である。実習ではまず、検査の基礎となる検査器具の使用法、検体の取り扱いを学ぶ。さらに、尿、便、髄液などを用いた化学的検査、および形態学的検査の手法を習得し、スクリーニング検査としての一般検査の重要性を理解する。

《テキスト》

「臨床検査学講座 一般検査学」 医歯薬出版
 「臨床検査学講座 医動物学」 医歯薬出版

《参考図書》

「一般検査技術教本」 日本臨床衛生検査技師
 「尿沈渣検査法2010」 日本臨床衛生検査技師

《授業の到達目標》

- ①ピペット、ガラス器具を使える。
 - ②検査の目的、操作法を理解し、正しいデータが出せる。
 - ③尿沈渣成分の特徴と臨床的意義を理解している。
 - ④寄生蠕虫類虫卵の鑑別点、幼虫の構造を習熟している。
- 《卒業認定・学位授与との関連》
 臨床検査技師国家試験に合格するために必要な知識と技術を習得している。

《授業時間外学修》

《準備学習》
 化学的検査は、目的から実習操作法までをまとめる。(60分)
 形態観察では、寄生虫や尿中成分の特徴を調べる。(30分)
 復習 実習結果の考察をする。(30分)

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 実習態度 (20%)
 《レポートのフィードバック方法》
 レポートにコメントをつけて返す。または実習時に解説する。

《備考》

実習までに操作法を書くだけでなく、使用する器具をイメージして、操作法の流れを理解できているか、考えながらまとめましょう。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	機器・器具の使い方	測定機器・器具の使用法について
2	一般検査①	尿中蛋白、糖、アセトン体の定性検査
3	一般検査②	尿中ビリルビン、ウロビリノゲンの測定、便潜血反応
4	一般検査③	尿中蛋白定量検査
5	一般検査④	髄液細胞数算定
6	尿沈渣①	尿沈渣標本の作製、血球の観察、スケッチ
7	尿沈渣②	上皮細胞の観察、スケッチ
8	尿沈渣③	円柱、結晶、細菌、その他の観察、スケッチ
9	尿沈渣④	各種尿中成分の鑑別およびカウント、スケッチ
10	尿沈渣⑤	各種尿中成分の鑑別およびカウント、スケッチ、まとめ
11	寄生虫の観察①	鏡検、スケッチ
12	寄生虫の観察②	鏡検、スケッチ
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	生理機能検査学 I				
担当者氏名	石河 健、溝渕 亜矢				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ○ 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力) 自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。				

《授業の概要》

循環器系のメカニズムを習得した上で心電図、脈波検査について学習する。同様に脳のメカニズムを習得した上で脳波の検査について学習する。アクティブラーニンググループを使用し、心電図波形と脳波波形について学生同士が議論しながら学習する。

《授業の到達目標》

①心電図の成り立ち、検査方法、正常と異常心電図との見極めができる②心音図、脈管検査について測定原理、臨床的意義を説明できる③脳波の成り立ち、検査方法、正常と異常脳波との見極めができる

《成績評価の方法》

1. 定期テスト 80%
 2. 確認テスト・提出課題など 20%
- 《試験のフィードバック方法》
定期試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

「生理機能検査学」 医歯薬出版社

《参考図書》

- 栗田 隆志 「12誘導心電図読み方マスター基礎編」 メディカ出版
 五島雄一郎 「心電図のABC」 日本医師会
 市川忠彦 「脳波の旅への誘い - 楽しく学べるわかりやすい脳波入門 -」 星和書店

《授業時間外学修》

事前学修：解剖学分野の予習を重点的に行う。次回の分野の解剖【循環器は刺激伝導系・心腔・弁・血管・血行動態、脳は解剖学的領域・局在機能】をしっかりと予習し、授業に備える。
 (30分)
 事後学修：予習した解剖学的内容と授業での学習した検査内容との関連をしっかりと理解する。(30分)

《備考》

専門用語は丸覚えせず、解剖図や波形を自分で描写できるようにする。
 実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	生体検査の種類と姿勢 正常心電図	生体検査の種類 検査技師業務範囲と姿勢 心周期現象
2	異常心電図 (リズムの異常)	異常心電図 (リズムの異常) 房室ブロック
3	異常心電図 (波形の異常)	異常心電図 (波形の異常) 脚ブロック
4	負荷心電図 (波形の異常)	負荷心電図 (波形の異常) 虚血性心疾患 心電図の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
5	ホルター・その他の心電図	ホルター・その他の心電図 装着方法 不整脈疾患 心電図の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
6	正常心音図	正常心音図 心周期 I音 II音
7	異常心音図	異常心音図 収縮期雑音 拡張期雑音
8	脈波・心尖・指尖容積脈波	脈波・心尖・指尖容積脈波 動脈硬化 動脈閉塞疾患
9	脈管疾患検査	脈管疾患検査 ABI PWV FMD
10	脳波の起源 正常脳波	脳波の起源 正常脳波 10-20法 モンタージュ
11	脳波波形 脳波賦活	脳波波形 脳波賦活 周波数 時定数
12	異常脳波 (波形)	異常脳波 (波形) てんかん
13	異常脳波	異常脳波 脳疾患
14	睡眠脳波	睡眠ステージ 終夜睡眠ポリソムノグラフィー 脳波の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
15	誘発脳波	ABR SEP VEP 脳波の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する

《専門教育科目 専門》

科目名	検査特論 I				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ◎ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 ◎ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。			

《授業の概要》

広く医療に関する発表や、講演を聞くことによって、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。また、施設見学や実習を通して、自分が目指している臨床検査技師は、患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならない。これらの意識を育てるための授業内容となっている。1～4が必修、5は選択とし、合計30時間以上行う。

《テキスト》

プリント

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ① 見学施設の仕事を十分理解している。
- ② 人体の解剖学を三次元的に理解している。
- ③ 自主性が身に付くようになる

《授業時間外学修》

事前学修

- ① 見学する施設の仕事を事前に調べる。(30分)
- ② 臓器の位置、構造について事前に勉強する。(30分)

事後学修：レポート提出

印象に残ったこと、見学してわかったことなど、自分が感じたことまとめる。(30分)

《成績評価の方法》

- ① 平常点 (受講態度) 20%
- ② レポート (提出状況、内容) 80%

《フィードバックの方法》

レポートにコメントをつけて返す。

《備考》

学外施設の実務家(職員)による指導を受ける

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病院見学実習	1年前期に近隣の総合病院にグループに分れ見学し、各部門を臨床検査技師の方から説明を受け将来の仕事を確認する。(1年)
2	解剖見学実習	人体解剖のDVDの鑑賞および各臓器の構造、形態についてグループ学修する。(1年)
3	施設見学実習	病院以外の医療機関の見学(1, 2年)
4	ラベルワーク	グループ学修(1, 2年)
5	学会および研修会	大学が認めたもの(1, 2年)
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	検査特論 I				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ◎ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 ◎ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。			

《授業の概要》

広く医療に関する発表や、講演を聞くことによって、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。また、施設見学や実習を通して、自分が目指している臨床検査技師は、患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならない。これらの意識を育てるための授業内容となっている。1~4は必修、5は選択とし、合計30時間以上行う。

《授業の到達目標》

- ① 見学施設の仕事を十分理解している。
- ② 人体の解剖学を三次元的に理解している。
- ③ 自主性が身に付くようになる

《成績評価の方法》

- ① 平常点 (受講態度) 20%
 - ② レポート (提出状況、内容) 80%
- 《フィードバックの方法》
レポートにコメントをつけて返す。

《テキスト》

プリント

《参考図書》

適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修

- ① 見学する施設の仕事を事前に調べる。(30分)
 - ② 臓器の位置、構造について事前に勉強する。(30分)
- 事後学修：レポート提出
印象に残ったこと、見学してわかったことなど、自分が感じたことまとめる。(30分)

《備考》

学外施設の実務家(職員)による指導を受ける

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病院見学実習	1年前期に近隣の総合病院にグループに分れ見学し、各部門を臨床検査技師の方から説明を受け将来の仕事を確認する。(1年)
2	解剖見学実習	人体解剖のDVDの鑑賞および各臓器の構造、形態についてグループ学修する。(1年)
3	施設見学実習	病院以外の医療機関の見学(1, 2年)
4	ラベルワーク	グループ学修(1, 2年)
5	学会および研修会	大学が認めたもの(1, 2年)
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床検査医学				
担当者氏名	岡村 美和、三島 清司、谷口 菊代、松村 直愛、石河 健、小野寺 利恵、藤井 仁人、藤井 隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。				

《授業の概要》

臨床検査は、疾患の診断・治療方針の決定・治療効果の判定等に必要客観的情報を提供し、現代医療を支えている。講義では、臓器別および疾患別に選択される臨床検査について学び、代表的な疾患の病態と用いられる臨床検査の関連について考える。

《テキスト》

臨床検査学講座「臨床医学総論／臨床検査医学総論」医歯薬出版

《参考図書》

日本医師会雑誌 135巻 最新 臨床検査のABC
 病気が見えるシリーズ：Vol.1~3 メディックメディア
 (循環器・消化器・DM/代謝/内分泌など)

《授業の到達目標》

- ①検査項目の名称と意味を理解している。
- ②検査の仕組、原理を理解している。
- ③疾病に対する検査の選別を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：学習内容の単語を中心に教科書を読む (20分)
 事後学修：課題、小テスト等の復習をする。(30分)

《成績評価の方法》

期末試験 90%
 課題 10%
 <期末試験のフィードバックの方法>
 期末試験 (60分) の後に解説 (30分) をする。

《備考》

臨床検査の総合的な科目であるため、各専門分野で学んだこと、これから学ぶことを結びつけて考えられるように学修して下さい。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床検査の意義、検査情報の活用法	基礎医学、予防医学、臨床医学
2	臨床検査学 総論	基準範囲、カットオフ値、臨床検査の性能評価
3	循環器疾患の検査1	生理機能検査
4	循環器疾患の検査2	生化学検査
5	消化器疾患、肝・胆・膵系疾患の検査	肝機能検査 尿検査、消化酵素検査
6	内分泌疾患の検査1	内分泌系の検査 下垂体機能検査
7	内分泌疾患の検査2	甲状腺機能検査 副甲状腺機能検査 副腎皮質機能検査 副腎髄質機能検査
8	内分泌疾患の検査3, 腫瘍マーカーの検査	内分泌疾患、腫瘍マーカーの検査
9	感染症の検査 有毒物中毒の検査	感染症の診断、有毒物中毒の検査
10	血液・造血器疾患の検査	血球検査、骨髄検査、出血性素因検査
11	腎・尿路疾患の検査	尿検査、生化学検査、腎生検
12	呼吸器疾患の検査 感覚器疾患の検査	呼吸器疾患の検査 感覚器疾患の検査 (生理機能検査)
13	電解質・酸-塩基平衡の検査、神経・運動器疾患	電解質検査 酸-塩基平衡、神経・運動器疾患検査
14	アレルギー検査・染色体・遺伝子検査	アレルギー検査、自己抗体検査、遺伝子染色体検査他
15	代謝・栄養異常の検査	糖代謝、脂質代謝、蛋白代謝の検査他

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床病態学 I				
担当者氏名	藤原 恵				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 <input type="radio"/> 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 <input type="radio"/> 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 <input type="radio"/> 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

今迄に学んできた基礎医学、臨床医学や臨床検査の知識を用い、疾患の病態生理を考える。本講義では、循環器疾患・呼吸器疾患・内分泌疾患・膠原病・代謝疾患・腎疾患・泌尿器科疾患・婦人科疾患・神経筋疾患・中毒などを扱い、内科学、外科学をはじめとする広い範囲の臨床医学を扱う。

《テキスト》

臨床検査学講座 「臨床医学総論/臨床検査医学総論」 医歯薬出版のp3～284

《参考図書》

病理学 (医学書院) ; 1年時の病理学の教科書

《授業の到達目標》

1. 各臓器各系統の機能解剖や、発生し得る疾患名を説明できる。
2. 各疾患の主要な病態生理を説明できる。
3. 各疾患の病態生理がいかに検査に反映されるか説明できる。
4. 主要な症状、検査、疾患名の英語表記が理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修：不要
 事後学修：授業でどの様なことを習ったか、大まかに列挙出来るように。(10分)

《成績評価の方法》

期末テスト(90%)
 小テスト(10%)
 《試験のフィードバック》
 試験後に解説をする。

《備考》

授業計画で週ごとの範囲は設定しますが、あくまでも目安で、予習は不要です。復習に重点を置いて下さい。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	循環器疾患1	各臓器の解剖学, 各疾患の病理形態学, 成因と病態生理, 症状, 診断とそのための検査, 治療と予後
2	循環器疾患2, 呼吸器疾患1	同上
3	呼吸器疾患2, 消化器疾患1	同上
4	消化器疾患1, 肝胆膵疾患1	同上
5	肝胆膵疾患2, 感染症1	同上
6	感染症2	同上
7	感染症3	同上
8	感染症4, 血液疾患1	同上
9	血液疾患2, 内分泌疾患1	同上
10	内分泌疾患2, 腎泌尿器科疾患1	同上
11	腎泌尿器科疾患2, 女性生殖器疾患, 神経疾患1	同上
12	神経疾患2, アレルギー性疾患1	同上
13	アレルギー性疾患2, 代謝疾患1	同上
14	代謝疾患2, 中毒, 染色体遺伝子異常	同上
15	まとめ	同上

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床病態学Ⅱ				
担当者氏名	香月 孝史、川井 信太郎、山崎 尚也、岡崎 富男				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 3-71 (態度と志向性) 医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》

広く医療に関する講義を聴くことにより、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。自分が目指している臨床検査技師は患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならない。臨床検査に関連した各分の専門家を招いて講演、実技指導をしていただく。

《テキスト》

各種プリント、スライド

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 広く医療に関する発表や、講演を聞くことによって、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。
- ② 目指している臨床検査技師は、患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持つことができる。

《授業時間外学修》

事前学修：講義テーマについて、言葉や内容を自分なりに調べて講義にのぞむ。(30分)
 事後学修：レポート提出
 講義で印象に残ったこと、感じたことについて自分なりの考えをまとめる。(60分)

《成績評価の方法》

- 1. 平常点 (授業態度) 20%
- 2. レポート、小テスト (提出状況、内容) 80%

《フィードバックの方法》

レポートはコメントをつけて返す。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	婦人科①	不妊治療(香月)
2	婦人科②	不妊治療 (香月)
3	小児科①	小児医療・骨髄移植 (岡崎)
4	小児科②	小児医療・骨髄移植(岡崎)
5	H I V	H I V感染症の病態学 (山崎)
6	H I V	H I V感染症の病態学 (山崎)
7	遺伝子検査学①	遺伝子と遺伝子検査 (川井)
8	遺伝子検査学②	遺伝子と遺伝子検査 (川井)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	病理検査学				
担当者氏名	椋 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○	1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。		
		◎	1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。		
		○	3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。		
		○	4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。		

《授業の概要》

病理学は、疾病の原因を解明し、その発症機序を解明する学問である。その場合、病変の根底となる細胞、組織の変化を検索することが必要である。

病理検査学は、これらの細胞、組織を顕微鏡下で観察できるように細胞、組織の標本作製する学問であり、その標本作製に必要な固定、染色などの基本的技術やそれらの原理を学ぶことを目的としている。前期は、病理組織検査を中心に学修する。

《授業の到達目標》

- ①病理組織標本作製過程を説明することができる。
- ②染色の目的・原理を説明することができる。
- ③各種疾患の病理学的診断に必要な病理組織標本の染色法を説明することができる。

《成績評価の方法》

期末試験 80%

小テスト 20%

《試験のフィードバック》

期末試験終了後に解説を行う。

試験：60分 解説：30分

《テキスト》

臨床検査学講座「病理学・病理検査学」 医歯薬出版
安松弘光 他著「細胞診検査の技術」カトープリントメディア

《参考図書》

JAMT技術教本シリーズ「病理検査技術教本」 丸善出版
Medical Technology別冊「最新 染色法のすべて」医歯薬出版
Medical Technology別冊「カラー版 組織アトラスー正常と病変」 医歯薬出版
臨床検査学講座「解剖学」 医歯薬出版
牛木辰男著「入門組織学」 南江堂

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の次回講義部分を読み、概要を理解する。(60分)

事後学修：講義で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。(120分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病理組織学的検査法の意義	病理検査学の意義
2	病理組織標本作製の手順	固定・切り出し・脱脂・脱灰・包埋・薄切・染色・封入の概要
3	組織片の切り出し	切り出しの目的と切り出しの実際
4	組織の固定法	固定の目的・原理と各種固定液
5	組織の脱灰法	脱灰の目的・原理と各種脱灰液
6	組織の包埋法	包埋の目的と包埋方法
7	組織の薄切法	薄切の目的と薄切方法
8	組織標本の日常染色法 (I)	染色の目的、染色前と染色後の操作
9	組織標本の日常染色法 (II)	ヘマトキシリン・エオジン染色
10	膠原線維の染色法	アザン染色、マッソン・トリクローム染色
11	弾性線維の染色法	エラスチ・ワンギーソン染色、ビクトリア青染色
12	細網線維の染色法	渡辺の渡銀法、過ヨウ素酸メセナミン染色
13	脂質の染色法	ズダンⅢ染色、オイルレッドO染色、ズダン黒B染色、ナイル青染色
14	多糖類の染色	過ヨウ素酸シッフ反応、グリコーゲンの消化試験、アルシアン青染色、ムチカルミン染色、トルイジン青染色
15	まとめ	腎糸球体基底膜の染色法

《専門教育科目 専門》

科目名	病理検査学実習				
担当者氏名	椋 清美				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 <input type="radio"/> 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 <input checked="" type="radio"/> 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 <input type="radio"/> 3-70 (態度と志向性) グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 <input type="radio"/> 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

病理検査には組織学的検査と細胞学的検査がある。前期では、組織学的検査に関わる標本作製技術や各種染色技術を習得する。その他に、凍結切片標本作製方法について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 病理組織標本作製できる。
- ② ヘマトキシリン・エオジン染色ができる。
- ③ 病理組織標本の各種特殊染色ができる。
- ④ 凍結切片標本を作成できる。

《成績評価の方法》

レポート 80%
 実習態度 20%
 《試験のフィードバック》
 実習レポート内容についての講評時間を設ける。

《テキスト》

臨床検査学講座「病理学・病理検査学」 医歯薬出版
 安松弘光 他著「細胞診検査の技術」カトープリントメディア

《参考図書》

JAMT技術教本シリーズ「病理検査技術教本」 丸善出版
 Medical Technology別冊「最新 染色法のすべて」医歯薬出版
 Medical Technology別冊「カラー版 組織アトラスー正常と病変」 医歯薬出版
 臨床検査学講座「解剖学」 医歯薬出版
 牛木辰男著「入門組織学」 南江堂

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の実習内容に目を通し、原理・目的などを理解する。(30分)
 事後学修：考察に重点をおき、実習レポートを作成する。(60分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	組織の切り出し、脱水、脱脂技術	実習準備、固定、切り出し、脱脂、脱灰
2	パラフィン包埋と薄切技術	包埋、薄切 AL：グループワーク（固定、切り出し、脱脂、脱灰、包埋、薄切について）
3	薄切と日常染色技術（I）	ヘマトキシリン・エオジン染色 AL：プレゼンテーション
4	膠原線維の染色	アザン染色、マッソントリクローム染色
5	弾性線維と膠原線維の染色	エラスチカ・ワンギーソン染色、ビクトリア青染色
6	細網線維の染色	渡辺の渡銀法
7	多糖類の染色	PAS反応、グリコーゲン消化試験
8	粘液の染色、アミロイドの染色	PAS反応、アルシアン青染色、コンゴ赤染色
9	脂肪の染色	ズダン染色、オイル赤染色、ズダンB黒染色
10	核酸の染色	フォイルゲン反応 AL：グループワーク（各種染色法について）
11	無機物の染色	ベルリン青染色 AL：プレゼンテーション
12	凍結切片作製法	凍結切片標本作製、ヘマトキシリン・エオジン染色、片付け
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	病理組織細胞検査学				
担当者氏名	椋 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 			

《授業の概要》

前半は、病理組織検査に関わる各種特殊染色の目的や原理について学修し、後半は、病理細胞検査に関わる標本作製に必要な検体採取、固定、染色などの基本技術やそれらの原理・目的について学修する。更に、各種臓器や検体に出現する細胞の所見について学修する。

《授業の到達目標》

- ①染色の目的・原理を説明できる。
- ②各種疾患の病理学的診断に必要な病理組織標本の染色法を説明することができる。
- ③病理細胞標本作製過程を説明できる。
- ④各種検体の細胞所見を説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験 80%
小テスト 20%
《試験のフィードバック》
期末試験終了後に解説を行う。
試験：60分 解説：30分

《テキスト》

出版臨床検査学講座「病理学・病理検査学」 医歯薬出版
安松弘光 他著「細胞診検査の技術」カトープリントメディア

《参考図書》

JAMT技術教本シリーズ「病理検査技術教本」 丸善出版
Medical Technology別冊「最新 染色法のすべて」医歯薬出版
Medical Technology別冊「カラー版 組織アトラスー正常と病変」 医歯薬出版
臨床検査学講座「解剖学」 医歯薬出版
牛木辰男著「入門組織学」 南江堂

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の次回講義部分を読み、概要を理解する。(60分)
事後学修：講義で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。(120分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	組織内病原体の染色法 (I)	一般細菌の染色法、抗酸菌の染色法、スピロヘータの染色法
2	真菌の染色法	グロコット染色、PAS反応
3	HBs抗原の染色法	オルセイン染色、ビクトリア青染色
4	組織内病原体の染色法 (II)	感染症と特殊染色
5	生体内色素の染色法	マッソン・フォンタナ染色、ドーパ反応、シュモール反応
6	内分泌細胞の染色法	グリメリウス染色、ゴモリのアルデヒド・フクシン染色
7	神経組織の染色法	クリューバー・バレラ染色、ボディアン染色
8	免疫組織化学染色法	免疫組織化学染色
9	電子顕微鏡標本作製法	電子顕微鏡の原理・目的と標本作製技術
10	細胞診総論	細胞学的検査法の意義と概要、スクリーニングの目的と実際
11	各種検体の処理法	検体採取と検体処理
12	婦人科系細胞診	子宮頸部と子宮内膜細胞診
13	体腔液、呼吸器系の細胞診	胸水、腹水、喀痰などの細胞診
14	消化器系、尿路系、などの細胞診	尿、乳腺、唾液腺などの細胞診
15	まとめ	感染症と細胞診

《専門教育科目 専門》

科目名	病理組織細胞検査学実習				
担当者氏名	椋 清美				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 <input type="radio"/> 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 <input checked="" type="radio"/> 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 <input type="radio"/> 3-70 (態度と志向性) グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 <input type="radio"/> 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

後期の前半は、前期に引き続き、各種染色法の技術を習得する。後半は既に学習した病理組織像を基礎知識として、各種検体の細胞診標本の作製法、更に各臓器の細胞学的検査とその所見を中心にその技術を習得する。更に良性細胞、感染などによる異型細胞及び悪性細胞の鑑別点を習得することを目的としている。

《授業の到達目標》

- ① 病理組織標本の各種特殊染色ができる。
- ② 細胞診用標本を作製できる。
- ③ 細胞診用検体を適切に処理できる。
- ④ 各臓器の細胞診形態を観察できる。

《成績評価の方法》

レポート 80%
 実習態度 20%
 《試験のフィードバック》
 実習レポート内容についての講評時間を設ける。

《テキスト》

臨床検査学講座「病理学・病理検査学」医歯薬出版
 安松弘光 他著「細胞診検査の技術」カトープリントメディア

《参考図書》

JAMT技術教本シリーズ「病理検査技術教本」丸善出版
 Medical Technology「最新 染色法のすべて」医歯薬出版
 Medical Technology「カラー版 組織アトラスー正常と病変」医歯薬出版
 臨床検査学講座「解剖学 医歯薬出版
 牛木辰男著「入門組織学」 南江堂

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の実習内容に目を通し、原理・目的などを理解する。(60分)
 事後学修：考察に重点をおき、実習レポートを作成する。(60分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	生体内色素の染色	実習準備、マッソン・フォンタナ染色
2	組織内病原菌の染色 (I)	チールネルゼン染色
3	組織内病原菌の染色 (II)	グロコット染色、PAS反応
4	組織内病原菌の染色 (III)	スピロヘータの染色
5	組織内病原菌の染色 (IV)	病原体の染色 AL：グループワーク (各種染色法について)
6	内分泌細胞の染色	グリメリウス染色
7	神経組織の染色法・免疫組織化学染色法	クリューバー・バレラ染色法、免疫組織化学染色
8	弾性線維の染色	AL：グループワーク (各種染色法について) とプレゼンテーション
9	細胞診総論	細胞診標本作製、検体処理、パパニコロウ染色
10	婦人科の細胞診、体腔液の細胞診	子宮頸部・子宮内膜、腹水、胸水などの細胞診標本観察
11	呼吸器の細胞診	喀痰などの呼吸器領域の細胞診標本観察
12	泌尿科領域の細胞診	尿などの泌尿科領域の細胞診標本観察
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床化学検査学 I				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

本講義では体液中に存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せて各種の検査結果がどの様に結びつき、また各臓器機能と病態との関連を学ぶとともに、その測定法(分析法)を学ぶ。

《テキスト》

浦山 修 他著「臨床検査学講座 臨床化学検査学」医歯薬出版

《参考図書》

柴田進著「病態生化学 その基礎」金芳堂
 阿部喜代司 他著「臨床検査学講座 生化学」医歯薬出版
 前川真人編集「標準検査技術学 臨床化学」医学書院

《授業の到達目標》

電解質と微量元素、糖質検査、脂質検査、タンパク質検査、非タンパク性窒素検査について其々の検査法及び臨床的意義を理解している。

《授業時間外学修》

講義で習得した各テーマ毎の測定法、臨床的意義の要点をまとめ小試験に臨むとともに、その解説を作成して理解する。
 事前学修(10分):事前にテキストの授業範囲箇所を目を通す。
 事後学修(20分):テキスト、配布資料等を参考にして確認小テスト問題を解く。

《成績評価の方法》

期末試験 90%
 平常点(小試験・レポート) 10%
 《フィードバックの方法》
 定期試験:試験(60分)の後に解説(30分)

《備考》

各テーマ毎にレポートを作成し、必ず期日までに提出する。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	電解質と微量元素 I	ナトリウム、カリウム、クロールについて理解する。
2	電解質と微量元素 II	カルシウム、マグネシウム、鉄について理解する。
3	電解質と微量元素 III	その他の微量元素、重炭酸イオンについて理解する。
4	糖質検査 I	糖質代謝と分析法を理解する。
5	糖質検査 II	糖質関連物質と糖尿病の諸検査について理解する。
6	脂質検査 I	I:脂質とリポ蛋白の関係について理解する。
7	脂質検査 II	II:脂質とリポ蛋白の関係について理解する。
8	脂質検査 III	III:脂質とリポ蛋白の関係について理解する。
9	脂質検査 IV	リン脂質、遊離脂肪酸、胆汁酸、過酸化脂質について理解する。
10	タンパク質検査 I	総タンパクとタンパク分画測定について理解する。
11	タンパク質検査 II	I:各種タンパク質測定の臨床的意義について理解する。
12	タンパク質検査 III	II:各種タンパク質測定の臨床的意義について理解する。
13	タンパク質検査 IV	III:各種タンパク質測定の臨床的意義について理解する。
14	非タンパク性窒素検査 I	アンモニア、尿素、クレアチン、クレアチニンについて理解する。
15	非タンパク性窒素検査 II	尿酸、ビリルビンについて理解する。

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床化学検査学Ⅱ				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

本講義では体液中に存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せて各種の検査結果がどのように結びつき、また各臓器機能と病態との関連を学ぶとともに、その測定法(分析法)を学ぶ。

《テキスト》

浦山修 他著「臨床検査学講座 臨床化学検査学」医歯薬出版

《参考図書》

柴田進 著「病態生化学 その基礎」金芳堂
 阿部喜代司 他著「臨床検査学講座 生化学」医歯薬出版
 前川真人 編集「標準検査技術学 臨床化学」医学書院
 河合忠 他著「異常値の出るメカニズム」医学書院

《授業の到達目標》

- ①臨床酵素、ホルモン、動的機能検査について其々の検査法及び臨床的意義を理解している。
- ②臓器機能評価と病態についての関係を理解している。
- ③診療支援として検査結果の解析をして病態を理解する。

《授業時間外学修》

講義で習得した各テーマ毎の測定法、臨床的意義等の要点をまとめて小試験に臨むとともに、その解説を作成し理解する。
 事前学修(10分):テキストの授業内容範囲箇所を目に通す。
 事後学修(20分):テキスト、配布資料等を参考にして確認小テスト問題を解く。

《成績評価の方法》

期末試験 90%
 平常点(小試験・レポート) 10%
 《フィードバックの方法》
 定期試験:試験(60分)の後に解説(30分)

《備考》

各テーマ毎にレポートを作成し、必ず期日までに提出する。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床酵素Ⅰ	酵素活性測定法について理解する。
2	臨床酵素Ⅱ	AST、ALTの測定法と臨床的意義について理解する。
3	臨床酵素Ⅲ	乳酸脱水素酵素、クレアチニンキナーゼの測定法と臨床的意義について理解する。
4	臨床酵素Ⅳ	γ-グルタミルトランスフェラーゼ、アルカリホスファターゼ、酸性ホスファターゼの測定法と臨床的意義について理解する。
5	臨床酵素Ⅴ	コリンエステラーゼ、アミラーゼ、リパーゼの測定法と臨床的意義について理解する。
6	臨床酵素Ⅵ	その他の酵素の測定法と臨床的意義について理解する。 酵素検査のまとめ。
7	ホルモンⅠ	内分泌の概念とホルモンの種類及びホルモン検査測定法(競合法、サンドイッチ法)を理解する。
8	ホルモンⅡ	下垂体ホルモンの生理作用と分泌調節を理解する。
9	ホルモンⅢ	甲状腺ホルモン、カルシウム調節ホルモンの生理作用と分泌調節を理解する。
10	ホルモンⅣ	副腎皮質・髄質ホルモンの生理作用と分泌調節を理解する。
11	ホルモンⅤ	睪ホルモン、その他のホルモンの生理作用と分泌調節を理解する。
12	臓器機能評価と病態Ⅰ	肝機能、心・循環器機能、腎機能検査と病態について理解する。
13	臓器機能評価と病態Ⅱ	内分泌機能、酸・塩基平衡機能について理解する。
14	臓器機能評価と病態Ⅲ	骨代謝機能、炎症、栄養状態、血中薬物モニタリングについて理解する。
15	診療支援について	臨床化学検査結果の解析をして病態を理解する。 臨床化学検査学Ⅱのまとめ。

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床化学検査学実習 I				
担当者氏名	岡村 美和、松村 直愛				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 2-67 (技能) 検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 ◎ 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。				

《授業の概要》

臨床化学検査学で学習した分析法を実際に体験することを目的とする。

臨床化学検査法の基礎を学び、各種秤量器具の正しい使い方、薬品の保管、秤量、調整等を行い、測定法の留意する点を考慮しながら分析し、測定結果の信頼性を確認する。検査結果から異常値のメカニズムや病態を考える。

《テキスト》

「臨床化学検査学 実習書」医歯薬出版
配布プリント

《参考図書》

「臨床化学の技術」金原出版

《授業の到達目標》

- ①分光光度計、pHメーター等の操作法を理解している。
- ②試薬の作製法を理解している。
- ③測定原理と操作法を理解している。
- ④検査データと病態との関連について理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：目的から操作法までをまとめ、実習内容を理解する(30分)
事後学修：実習内容を振り返り、結果を考察する。(30分)

《成績評価の方法》

1. レポート (80%)
2. 実習態度 (20%)

《フィードバックの方法》

レポートを確認し、コメントをつけて返す。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	基礎実習①	分光光度計、pHメータ 各種ピペットの使い方
2	基礎実習②	吸光度測定
3	実習準備	実習の説明・試薬作製
4	グルコース測定	GOD-POD法、添加回収率
5	実習準備	実習の説明・試薬作製
6	総蛋白・アルブミン・蛋白分画測定	ビウレット法、BCG法、電気泳動法
7	総蛋白・アルブミン・蛋白分画測定	ビウレット法、BCG法、電気泳動
8	実習準備	実習説明と試薬調整準備
9	ビリルビン測定	Malloy - Evelyn法、
10	尿素窒素・クレアチニン測定	ウレアーゼ・GLDH法、Folin-Wu法
11	実習準備	実習の説明・試薬作製
12	脂質検査	コレステロールオキシダーゼ・DAOS法、アルコール性KOH-GK-PK-LD法
13		
14		
15		

科目名	臨床化学検査学実習Ⅱ				
担当者氏名	岡村 美和、松村 直愛				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 2-67 (技能) 検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。				

《授業の概要》

前期の臨床化学検査学実習に引き続いて、後期は特に微量金属及び酵素測定法を中心にして試薬を調整し、測定実習を行う。終点分析(End point assay)と初速度分析法(Kinetic analysis rate assay)の違いや、初速度分析法ではKm値測定など化学的分析法を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 実習を通して正しい器具の取り扱いができる。
2. 実習を通して測定原理及び試薬組成を理解し、説明ができる。
3. 課題をまとめ、具体的に説明できる。

《成績評価の方法》

レポート 60%
 口答試問 10%
 平常点(実習態度、課題) 30%
 《フィードバックの方法》
 レポートの内容をチェックして評価コメントを付け加える。

《テキスト》

浦山修 他著「臨床検査学講座 臨床化学検査」 医歯薬出版
 配布プリント(実習手引き)

《参考図書》

金井正光 監修「臨床検査提要」 金原出版
 柴田進・佐々木匡秀 共著「日常臨床化学 超微量定量法」
 金芳堂
 日本臨床検査学教育協議会 監修「臨床化学検査学 実習書」
 医歯薬出版

《授業時間外学修》

事前学修(15分): 秤量器の原理その使用方法、試薬調整、mol/lとg/dlの関係、実習以外の原理に基づく測定法、ならびに病態との関係について理解する。実習手引きの配布プリントは事前確認して実習に臨む。
 事後学修(15分): レポート返却後、評価コメントを確認して再度実習内容を理解する。

《備考》

実習にあたって、安全管理に心掛ける。グループで協力して事前確認後、実習を行う。レポートは必ず期日までに提出する。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	吸収スペクトル	各種溶液を使用して測定波長選択を理解する。
2	無機カルシウム測定	カルシウムの測定試薬調整を行う。
3	無機カルシウム測定	カルシウムの測定時間の決定と測定を実施する。
4	無機リン測定	無機リンの測定試薬の調整を行う。
5	無機リン測定	無機リンの測定を実施する。
6	アルカリフォスファターゼ終点測定法	アルカリフォスファターゼ測定(kind-king法)の試薬調整を行う。
7	アルカリフォスファターゼ終点測定法	アルカリフォスファターゼの終点測定法(kind-king法)での測定を実施する。
8	アルカリフォスファターゼ初速度測定法	アルカリフォスファターゼ測定(初速度測定法)の試薬調整を行う。
9	アルカリフォスファターゼのKm値測定	アルカリフォスファターゼ初速度測定法でのミカエリス定数(Km値)を求める。
10	アルカリフォスファターゼ初速度測定法	アルカリフォスファターゼを初速度測定法での測定とkind-king法(終点測定法)との比較をする。
11	乳酸脱水素酵素とアイソザイム測定	乳酸脱水素酵素アイソザイム測定と乳酸脱水素酵素測定の実施。
12	乳酸脱水素酵素とアイソザイム測定	乳酸脱水素酵素アイソザイム測定と乳酸脱水素酵素測定の実施。
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	染色体・遺伝子検査学実習				
担当者氏名	岡村 美和、藤井 仁人、小野寺 利恵				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ○ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 2-67 (技能) 検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能) 検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。				

《授業の概要》

現在、病院検査室では、抗酸菌、クラミジア、HBV、HCV、HIVなどの感染症や、移植におけるHLA タイピング、キメリズムの検査を遺伝子の技術を用いて検出する時代となった。また、白血病の検査では染色体・遺伝子異常の検出が主になっている。将来医療の多くの分野でさらに発展していく分野であり、DNAの抽出、電気泳動によるDNA確認法、PCRなどの遺伝子操作の基本的技術の習得を目的とする。

《授業の到達目標》

- ① 遺伝子の取り扱いに注意して操作ができる。
- ② 検査法の原理を理解して操作ができる。

《成績評価の方法》

平常点 (60%) : 実習態度
 レポート (40%)
 ≪レポートのフィードバック≫
 レポートにコメントをつけて返却する。

《テキスト》

「臨床検査学講座 染色体・遺伝子検査学」医歯薬出版
 プリント

《参考図書》

「臨床検査学実習書シリーズ 遺伝子検査学実習書」医歯薬出版

《授業時間外学修》

事前学修：次回行う内容の目的意義、操作法など理解する。
 (30分)
 事後学修：染色体遺伝子の基礎問題プリントをする。(30分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	感染症関連の遺伝子検査 (1)	Genus Mycobacterium DNA プローブ法で検査する (藤井)
2	感染症関連の遺伝子検査 (2)	Genus Mycobacterium DNA プローブ法で同定する (藤井)
3	染色体検査の説明	試薬調製、器具滅菌、細胞培養準備 (小野寺)
4	染色体検査 (培養)	PHA によるT細胞の幼弱化 (培養) (小野寺、岡村、谷口)
5	染色体検査 (観察)	PHA 幼弱化T細胞・分裂中期染色体の観察 (小野寺、岡村、谷口)
6	DNA抽出	末梢血・白血球からのDNA 抽出 (小野寺、岡村)
7	ALDH2遺伝子検出	ALDH2 (アセトアルデハイド・デヒドロゲナーゼ 2) 遺伝子の一塩基多型の識別 (岡村)
8	マイクロサテライトDNA 多型の検出	マイクロサテライトDNA 多型の検出 (小野寺)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	免疫検査学				
担当者氏名	小野寺 利恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎	1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。		
		◎	1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。		
		◎	1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。		

《授業の概要》

病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。抗原抗体反応の種類は多くあるが、それぞれの反応原理について学ぶ。また、各種疾患の診断に用いられる検査法について学び、それぞれの検査法の臨床的意義を理解する。

《テキスト》

「臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版

《参考図書》

「臨床免疫学」医歯薬出版
 「新版 臨床免疫学 第2版」講談社サイエンティフィク
 「標準臨床検査学 免疫検査学」医学書院

《授業の到達目標》

- ①試験管内抗原抗体反応の種類をあげることができる。
- ②各試験管内抗原抗体反応の原理を説明することができる。
- ③種々の疾患で用いられる免疫学的検査法をあげることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。(10分程度)
 事後学修：まとめノートを作成し復習する。(30分程度)

《成績評価の方法》

確認テスト (30%)
 期末テスト (70%)
 《試験のフィードバック方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分、解説30分)
 確認テストは理解できるまで繰り返し実施する。

《備考》

疑問・質問ができるように、集中して授業に参加してください。授業中のディスカッション、グループワークを有効に活用しましょう。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	免疫学的検査の原理	試験管内抗原抗体反応の基礎
2	沈降反応	沈降反応の原理とその種類
3	凝集反応	凝集反応の原理とその種類
4	溶解反応	溶解反応の原理とその種類
5	中和反応	中和反応の原理とその種類
6	非標識抗原抗体反応	非標識抗原抗体反応の原理とその種類
7	標識抗原抗体反応	標識抗原抗体反応の原理とその種類
8	電気泳動法	免疫電気泳動法の原理とその種類
9	感染症の検査	感染症検査に関する各種免疫検査とその評価
10	アレルギー検査	アレルギー検査に関する各種免疫検査とその評価
11	自己免疫疾患関連検査	自己免疫疾患関連の各種免疫検査とその評価
12	免疫不全症関連検査	免疫不全症関連の各種免疫検査とその評価
13	腫瘍マーカー検査	腫瘍マーカーの検査とその評価
14	血清蛋白異常症関連検査	血清蛋白異常関連の各種免疫検査とその評価
15	自動化免疫検査法	自動化免疫検査法の各種原理および項目

《専門教育科目 専門》

科目名	免疫検査学実習				
担当者氏名	小野寺 利恵、谷口 菊代				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-67 (技能)検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能)検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 ◎ 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 ◎ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。種々の方法による試験管内抗原抗体反応を実習することによって、各検査法の目的と反応原理および疾患の診断データとしての臨床的意義を理解させる。

《テキスト》

「臨床検査学実習書シリーズ 免疫検査学実習書」医歯薬出版
プリント

《参考図書》

「臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版
「臨床免疫検査 技術教本」JAMT技術教本シリーズ 丸善出版

《授業の到達目標》

- ①各検査法の原理を説明することができる。
- ②免疫学的基本操作法、技術が身につけている。
- ③実習内容について所定の形式でレポートを作成することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：レポートを指定の形式に従って題名、目的（臨床的意義）反応の原理、方法まで書いてくる。（40分程度）
事後学修：実習レポートを作成する。
結果、考察を追記して期限までに提出する。（30分程度）

《成績評価の方法》

1. 平常点（予習、実習態度）50%
2. レポート（提出状況、内容）50%

《課題のフィードバック方法》

レポート（提出物）について講評の時間を設ける。

《備考》

毎回「実習自己チェックシート」を用いて、実習の取り組みについて確認します。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	採血	血清分離法、血清保存法
2	沈降反応	免疫比濁法
3	直接凝集反応	正常異種凝集反応、寒冷凝集反応
4	間接凝集反応	梅毒検査（TPPA、RPR）
5	溶解反応	CH50、正常異種溶血反応
6	免疫電気泳動	免疫電気泳動法
7	標識抗原抗体反応(1)	酵素免疫測定法、免疫クロマトグラフィ法
8	標識抗原抗体反応(2)	間接蛍光抗体法
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	輸血・移植検査学				
担当者氏名	小野寺 利恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解)基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

補充療法の1つである輸血、高度先進医療である臓器移植や骨髄移植について、これら治療法の意義を理解するとともに、必要な基礎知識と検査法について学ぶ。また、最新の再生医療についても紹介する。

《テキスト》

「臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版
プリント

《参考図書》

「JAMT技術教本シリーズ 輸血・移植検査技術教本」丸善出版
「スタンダード輸血検査テキスト」医歯薬出版
「標準臨床検査学 免疫検査学」医学書院

《授業の到達目標》

- ①輸血療法の意義、血液製剤の特徴について理解している。
- ②輸血移植検査の種類、進め方を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。(10分程度)
事後学修：まとめノートを作成し復習する。(30分程度)

《成績評価の方法》

確認テスト (30%)
期末テスト (70%)
《試験のフィードバック方法》
期末試験後に解説を行う。(試験60分、解説30分)
確認テストは理解できるまで繰り返し実施する。

《備考》

まずは基本をしっかり覚えて、1つずつ理由を考えながら勉強を進めましょう。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	輸血療法	輸血の目的と特性、種類
2	輸血用血液製剤の種類と特性	供血者の基準、血液製剤の種類・有効期限・保存方法など
3	輸血の適応と製剤の選択	血液製剤の使用指針について
4	ABO 式血液型	ABO式血液型の特徴 アクティブラーニング (グループディスカッション、発表)
5	Rh 式血液型	Rh式血液型の特徴
6	その他の血液型	その他の血液型の種類と特徴
7	赤血球抗体検査	赤血球抗体の検査方法、不規則抗体同定 アクティブラーニング (グループディスカッション、発表)
8	交差適合試験	交差適合試験の目的、結果の解釈 アクティブラーニング (グループディスカッション、発表)
9	輸血副作用	輸血副作用の種類と分類
10	自己血輸血	自己血輸血の利点と問題点
11	新生児溶血性疾患	血液型不適合妊娠による新生児溶血性疾患のメカニズム
12	白血球・血小板・顆粒球抗原と臨床的意義	HLA検査の種類と応用、HPA検査と臨床的意義、HNA検査と臨床的意義
13	移植免疫と検査	移植の種類、拒絶反応について
14	免疫機能検査	免疫機能検査の種類と応用
15	再生医療	再生医療の応用

《専門教育科目 専門》

科目名	輸血・移植検査学実習				
担当者氏名	小野寺 利恵、谷口 菊代				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-67 (技能)検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ◎ 2-68 (技能)検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 ○ 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

輸血や移植関連検査は、高度先進医療には欠かせない重要な検査である。安全な輸血、成功率の高い移植のためには、高度な知識と技術が必要である。輸血、移植に必要な臨床検査の基本的術式と関連した免疫機能検査法を学ぶ。

《テキスト》

「輸血のための検査マニュアル」日本輸血・細胞治療学会プリント

《参考図書》

「JAMT技術教本シリーズ 輸血・移植検査技術教本」丸善
 「輸血・移植検査学実習書」日本臨床検査学教育協議会
 「スタンダード輸血検査テキスト」医歯薬出版
 「移植・輸血検査学」講談社サイエンティフィック
 「輸血学テキスト」中外医学社 大坂顯通／編著
 「血小板/顆粒球抗原・抗体検査標準マニュアル」医歯薬出版

《授業の到達目標》

- ①輸血検査（試験管法）において、凝集・非凝集を見分け、総合判定することができる。
- ②検査における異常反応の進め方を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：レポートを指定の形式に従って、題名、臨床的意義、原理、方法まで書き、手順を理解しておく。（40分程度）
 事後学修：実習レポートを作成する。
 結果、考察を追記して期限までに提出する。（30分程度）

《成績評価の方法》

平常点（予習、実習態度）50%
 レポート（提出、内容）50%
 《課題のフィードバック方法》
 レポート（提出物）について講評の時間を設ける。

《備考》

グループでディスカッションしながら積極的に実習に参加しましょう。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ABO 式血液型判定、Rh 式血液型判定法	試験管法・スライド法による判定、オモテウラ不一致の場合の考え方 Rh式血液型の判定方法、RhD陰性の場合の考え方
2	抗A抗B凝集素価の測定	抗体価の測定とその臨床的意義
3	唾液中の血液型物質測定	唾液中の血液型物質測定の有用性
4	不規則抗体検出法	各種検査法を組み合わせた不規則抗体の検出
5	交差適合試験	交差適合試験の実施と結果の解釈
6	リンパ球混合培養試験	PHAによるリンパ球幼弱化試験、各種抗原に対する反応（IV型アレルギー）
7	リンパ球細胞障害性試験（LCT）	リンパ球細胞障害性試験（LCT）の判定
8	白血球凝集法（MLAT）	白血球凝集法（MLAT）によるHNAタイピング
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	生理機能検査学Ⅱ				
担当者氏名	溝渕 亜矢、石河 健				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

肺のメカニズムを習得した上で肺機能検査について学習する。同様に神経のメカニズムを習得した上で針筋電図、神経伝導検査について学習する。アクティブラーニングルームを使用し、超音波画像について学生同士が議論しながら学習する。

《テキスト》

「生理機能検査学」 医歯薬出版社

《参考図書》

超音波検査学会HP eラーニング

《授業の到達目標》

- ①肺機能の検査方法、正常と異常の見極めができる
- ②超音波の成り立ち、検査方法、正常像、正常と異常の見極めができる
- ③神経検査の検査方法、正常と異常の見極めができる

《授業時間外学修》

事前学修：解剖学分野の予習を重点的に行う。次回の分野の解剖【肺については気管・肺胞・毛細血管、心臓について心腔・弁・血管、腹部：肝・膵・胆のう・腎・脾、神経：ニューロン・骨格筋細胞】をしっかりと予習し、授業に備える。(30分)
 事後学修：予習した解剖学的内容と授業での学習した検査内容との関連をしっかりと理解する。(30分)

《成績評価の方法》

- 1. 定期テスト 80%
 - 2. 確認テスト・提出課題など 20%
- 《試験のフィードバック方法》
 定期試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《備考》

専門用語は丸覚えせず、解剖図や波形を自分で描写できるようにする。
 実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	肺胞機能	全肺機能 残気量 拡散機能
2	換気機能	肺分画 肺活量 努力性肺活量 肺機能検査の症例に対する問題解決型学習を実施する
3	血液ガス	検体の取り扱い アシドーシス アルカローシス 血液ガスの症例に対する問題解決型学習を実施する
4	超音波の基礎	超音波 周波数 ドプラ効果
5	超音波検査機器の構造と機能	プローブの種類 アーチファクト
6	腹部臓器の解剖・生理	解剖学
7	腹部超音波 肝臓 膵 胆嚢	肝臓、膵臓、胆嚢についての解剖、病態とそれに伴う超音波所見について 腹部超音波の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
8	腹部超音波 腎 脾臓	腎臓 脾臓についての解剖、病態とそれに伴う超音波所見について 腹部超音波の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
9	心臓超音波 正常基本像	心臓解剖図(心腔、弁、血管) 血行動態 正常基本像(左室長軸断面、左室短軸断面、心尖部四腔像、心尖部長軸像)
10	心機能評価	収縮能、拡張能、圧較差(ベルヌーイの式)
11	心臓超音波と病態	弁膜症、先天性心疾患、心筋症、心筋梗塞 心臓超音波の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する
12	頸動脈超音波	頸部および頭部の血管解剖、頸動脈波形、動脈硬化症について
13	体表・骨盤腔・下肢超音波	乳腺 甲状腺 骨盤内臓器 下肢静脈 深部静脈血栓症
14	針筋電図	針筋電図 波形異常
15	神経伝導検査	神経伝導検査 H波 F波 神経伝導検査の所見を学生が読影する問題解決型学習を実施する

《専門教育科目 専門》

科目名	生理機能検査学Ⅲ				
担当者氏名	溝淵 亜矢、石河 健、平松 伸夫、長 陽子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

眼底検査・画像検査・感覚機能検査に関する原理や方法を理解し、それらの検査に関連する病態について学習する。

《テキスト》

「生理機能検査学」 医歯薬出版社

《参考図書》

尾上尚志 ほか「病気がみえる 脳・神経」ディックメディアオリジナルテキスト

《授業の到達目標》

- ①正常眼底と異常眼底を理解している。
- ②MRI結果の解析について理解している。
- ③耳鼻科領域の検査について理解している

《授業時間外学修》

事前学修：解剖学分野の予習を重点的に行う。次回の分野の解剖【目：眼球構造、MRI：頭部および全身の解剖学、耳鼻科：平衡感覚、聴覚、味覚、臭覚】をしっかりと予習し、授業に備える。(30分)
 事後学修：予習した解剖学的内容と授業での学習した検査内容との関連をしっかりと理解する。(30分)

《成績評価の方法》

- 1. 定期テスト 80%
- 2. 確認テスト・提出課題など 20%

《試験のフィードバック方法》

定期試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《備考》

専門用語は丸覚えせず、解剖図や検査結果を自分で描写できるようにする。
 実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	無散瞳眼底検査	眼科領域 解剖学
2	無散瞳眼底検査	眼底カメラ
3	磁気共鳴画像	MRIの原理 検査時の注意点 (平松)
4	磁気共鳴画像	頭部 頭頸部 脊髄 (平松)
5	磁気共鳴画像	心臓 大血管 骨盤部 関節 (平松)
6	聴力検査	聴覚領域 解剖学 オーディオグラム
7	平衡検査	平衡機能 検査装置 (長)
8	味覚・臭覚検査	耳鼻科領域 解剖学 (長)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	生理機能検査学実習 I				
担当者氏名	溝淵 亜矢、石河 健				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-67 (技能)検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

生体検査の特性を知った上で、機器に慣れ、信頼できるデータを提供し、緊急時の対処法を指導する。腹部超音波検査では各臓器を描出し主要な病態、心電図実習では12誘導心電図、R-R心電図、負荷心電図の実習、脳波では電極装着、賦活脳波を実習する。また、検査時における患者対応、接遇についても学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①標準12誘導・負荷心電図を記録することができる。
- ②波計の操作ができ賦活脳波を記録することができる。
- ③腹部超音波で各臓器を描出できる。
- ④被検者の検査法、緊急時の対処ができる。

《成績評価の方法》

1. 平常点 (実習態度、発表など) 30%
2. 実習レポート (提出・内容) 70%

《課題へのフィードバックの方法》 実習レポートには添削やコメントなどを記す。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	心電図 四肢誘導	装着部位の確認 アーチファクト
2	心電図 胸部誘導	肋骨および肋間の確認方法
3	心電図 12誘導	心電図計測
4	負荷心電図	メイソンリカー法
5	負荷心電図	マスター負荷心電図
6	脳波 電極装着	10-20法
7	脳波 誘導法	アーチファクト 時定数
8	脳波 賦活法	開閉眼 過呼吸負荷 光刺激
9	脳波	インピーダンス 周波数
10	脳波	背景脳波
11	腹部超音波 肝臓	肋間操作 肋骨弓下操作 心窩部操作 区域分類
12	腹部超音波 胆のう	胆のう 胆管
13	腹部超音波 腎臓	腎臓 CEC 肝腎コントラスト
14	腹部超音波 膵臓・脾臓	膵臓・脾臓 半座位
15	超音波 頸動脈	リニアプローブ 血流波形

《テキスト》

東條・川良ほか「生理機能検査学」 医歯薬出版社

《参考図書》

辻本文雄「腹部超音波テキスト」 ベクトル・コア
 村川裕二・訳「図解心電図テキスト」 文光堂 所司睦文
 「臨床脳波検査スキルアップ」 金原出版社 江部・本間
 「図解脳波テキスト」 文光堂 竹原靖明「腹部エコーのABC」 日本医師会編 オリジナルのテキスト

《授業時間外学修》

事前学修：実習テーマに沿って事前に教科書など熟読する。(30分程度)

事後学修：実習レポートの作成が中心ではあるが、考察をしっかりと行なうこと。検査マニュアルの確認。(90分)

《備考》

実習では被検者のいろいろな状態を想定して検査対応ができるように指導する。
 実務家教員としての授業です。

科目名	生理機能検査学実習Ⅱ				
担当者氏名	溝淵 亜矢、石河 健				
授業方法	実習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-67 (技能)検査機器の操作マニュアルに従って、正しく操作することができる。 ○ 3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

呼吸機能では肺活量、努力性肺活量また、機能的残気量、拡散能力の検査を実習し、筋電図検査（神経電導速度）検査では適切な部位で刺激できるよう、心臓超音波検査では基本断層像の描出、各検査ともに手技を覚え、信頼できるデータを提出できるよう指導し、それぞれの病態についても理解する。（2部に別れ指導する）

《授業の到達目標》

- ①呼吸機能検査法を理解し、信頼できるデータを出すことができる。
- ②無散瞳眼底写真を撮ることができる。
- ③神経伝導検査・体性感覚誘発検査を実施でき波形意味を理解できる。
- ④心臓超音波の基本断層像を描出し、異常所見を理解することができる。

《成績評価の方法》

1. 平常点（実習態度、発表など） 30%
2. 実習レポート（提出・内容） 70%

《課題へのフィードバックの方法》 実習レポートには添削やコメントなどを記す。

《テキスト》

東條・川良ほか「生理機能検査学」 医歯薬出版社

《参考図書》

木村淳ほか「神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 医学書院
 廣瀬和彦「筋電図判読テキスト」 文光堂 樺山
 幸彦ほか「心エコー法 テクニカルガイド」診断と治療社
 「生理機能検査学 実習書」 医歯薬出版社
 オリジナル実習マニュアル

《授業時間外学修》

事前学修：実習テーマに沿って事前に教科書など熟読する。（30分程度）
 事後学修：実習レポートの作成が中心ではあるが、考察をしっかりと行なうこと。検査マニュアルの確認。（90分）

《備考》

実習では被検者のいろいろな状態を想定して検査対応ができるように指導する。
 実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	呼吸機能検査 スパイロメトリ・フローボリューム曲線	一般呼吸機能検査装置の操作法
2	検査結果と病態	検査結果の計算 キャリブレーション
3	機能的残気量検査	精密肺機能検査装置の操作法を習得
4	肺拡散能力検査	精密肺機能検査装置の原理およびメンテナンス
5	無散瞳眼底検査	眼底カメラの操作方法
6	心臓超音波検査 左室長軸像 B・Mモード	超音波検査装置の基本操作
7	胸骨左縁短軸像の描出 壁運動観察	収縮能の計測
8	心尖部長軸像 流入血流波形	パルスドブラ法
9	心尖部2・4腔像の描出 逆流の有無	カラードブラ法 連続波ドブラ法
10	その他の超音波検査 経頭蓋 下肢血管 婦人科	乳腺エコー、
11	運動神経 感覚神経（正中、尺骨、橈骨）	神経伝導検査
12	運動神経 感覚神経（後脛骨、腓骨神経）	神経伝導検査
13	体性感覚誘発電位	SEP ABR VEP
14	臭覚・味覚検査実習	耳鼻科領域
15	心臓超音波マニュアル グループ発表	グループごとに超音波検査やその関連疾患について、発表、討論を行う

《専門教育科目 専門》

科目名	ゼミナール			
担当者氏名	藤井 仁人、石河 健、岡村 美和、小野寺 利恵、谷口 菊代、椋 清美、松村 直愛、三島 清司、溝渕 亜矢			
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 <input type="radio"/> 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 <input type="radio"/> 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。			

《授業の概要》

世界の研究動向をレビューしながら、独自性のある研究テーマを設定する。実験方法の原理について理解をした上で、実験計画を立てる。実験計画に従って実験を開始する。

《テキスト》

研究内容と展開に応じて紹介する。

《参考図書》

研究内容と展開に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

研究の位置付け、目的、実験方法と原理、実験計画の合理性についての理解している。

《授業時間外学修》

特に実験方法と原理について、教科書、論文、インターネットを駆使して理解するための予修と復修を必要に応じて行う。

《成績評価の方法》

レポート 80点
授業態度 20点

《備考》

PCを多用する。(共用PCの使用で構わない)
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
2	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
3	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
4	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
5	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
6	研究テーマの設定	世界の研究動向をレビューしながら、研究テーマを設定する。
7	実験方法と原理の理解	研究に用いる可能性がある実験方法について、その原理と方法、利点と欠点について理解する。
8	実験方法と原理の理解	研究に用いる可能性がある実験方法について、その原理と方法、利点と欠点について理解する。
9	実験方法と原理の理解	研究に用いる可能性がある実験方法について、その原理と方法、利点と欠点について理解する。
10	実験計画の立案	研究目的を達成するための、具体的な実験計画を立てる。
11	実験計画の立案	研究目的を達成するための、具体的な実験計画を立てる。
12	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
13	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
14	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
15	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。

《専門教育科目 専門》

科目名	ゼミナール			
担当者氏名	藤井 仁人、石河 健、岡村 美和、小野寺 利恵、谷口 菊代、椋 清美、松村 直愛、三島 清司、溝淵 亜矢			
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 <input type="radio"/> 4-72 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。 <input type="radio"/> 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。		

《授業の概要》

設定した研究テーマについて、実験計画し従った実験を進め、合理的な結論を導き出す。論理的かつ明確なレポートを作成する。また、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。

《テキスト》

研究内容と展開に応じて紹介する。

《参考図書》

研究内容と展開に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

得られた結果について、論理的な思考により合理的な結論を導き出す事ができる。科学的なレポートを作成できる。わかりやすいプレゼンテーションができる。

《授業時間外学修》

特に実験方法と原理について、教科書、論文、インターネットを駆使して理解するための予修と復修を必要に応じて行う。

《成績評価の方法》

レポート 80点
プレゼンテーション 20点

《備考》

PCを多用する。(共用PCの使用で構わない)
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
2	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
3	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
4	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
5	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
6	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
7	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
8	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
9	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
10	実験	実験を開始する。結果が出れば、適切な方法による解析を行う。
11	結果のまとめ	実験結果を解析し、合理的な結論を導き出す。
12	結果のまとめ	実験結果を解析し、合理的な結論を導き出す。
13	結果のまとめ	実験結果を解析し、合理的な結論を導き出す。
14	結果のまとめ	プレゼンテーションの練習。
15	プレゼンテーション	人前でプレゼンテーションを行う。

《専門教育科目 専門》

科目名	医療安全管理学				
担当者氏名	三島 清司				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 <input type="radio"/> 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 <input checked="" type="radio"/> 3-71 (態度と志向性) 医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。			

《授業の概要》

臨床検査技師は細心の注意を払って業務を遂行することが求められる。そのためには「患者の安全対策」「検査室の安全対策」「医療機器の安全管理」と、管理責任が問われることになる。本講座では、様々な過程での医療安全管理手法、過誤(事故)の対処および公衆衛生の動向について学ぶ。アクティブラーニングルームにおいて、3回以上討論形式で実施する。

《授業の到達目標》

1. 臨床検査技師が身につけておくべき医療安全管理に関する基本的知識を理解している。 2. 医療安全管理の実践方法を理解している。 3. 公衆衛生の動向を理解している。 4. 身の回りにある問題点を、客観的な視点で考察することができる。

《成績評価の方法》

1. 小試験・発表 (20%)
 2. 本試験 (80%)
 《試験のフィードバックの方法》
 期末試験に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「最新臨床検査学講義医療安全管理学」医歯薬出版株式会社

《参考図書》

「臨床検査技師のための医療安全管理教本」株式会社じほう

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておく。(20分程度)
 事後学修：学んだことを実生活に応用する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	患者と技師のかかわり	患者と技師とのかかわり、接遇・コミュニケーションスキル 技師による検査説明、チーム医療への技師のかかわり
2	リスクマネジメント	医療事故、インシデント、アクシデント
3	感染対策	感染対策の意義と考え方、手指衛生、個人防護具 標準予防策、感染経路別予防策
4	感染対策	ワクチン等による予防、アウトブレイク 感染対策業務の組織化と実践
5	検体採取	検体採取の意義、採血
6	検体採取	採血注意点
7	各部位からの検体採取	鼻腔・咽頭等からの検体採取
8	各部位からの検体採取	皮膚・口腔等からの検体採取
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎》

科目名	健康食品総論				
担当者氏名	小野寺 利恵、谷口 菊代、藤井 仁人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。				

《授業の概要》

健康食品管理士資格取得対策として、重要項目についての解説と要点の理解を促す。また、健康食品に限らず、食全般の安全・安心と健康に関して理解を深める。病気の発症機序の解明による対策の一環として考えられる、食品と栄養、各種の機能食品に対する知識とその摂取方法を学習し、健康の維持増進について考える。

《テキスト》

「保健機能食品学」一般社団法人 日本食品安全協会

《参考図書》

「健康食品管理士認定試験のための問題解説集」一般社団法人 日本食品安全協会

《授業の到達目標》

①からだの機能と、その維持に関与する成分をあげることができる。②健康食品と医薬の相互関係を理解する。③健康状態を示す科学的根拠として、臨床検査データを利用することができる。④健康食品を管理する法律を理解する。

《授業時間外学修》

事前学修：学習内容のキーワードを中心に事前にテキストを読んでおく。(20分程度)
 事後学修：授業内容に即した問題を解くことで知識を習得する。日常生活においては、市場に出回る健康食品に関心を持つ。(30分程度)

《成績評価の方法》

平常点(発表・授業態度など)20%
 定期試験(問題集より出題)80%
 <課題へのフィードバックの方法> 定期試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《備考》

臨床検査技師の専門知識との関連が深いので、他の教科のテキストも参考にしてもらいたい。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	健康食品各論Ⅰ	栄養とその歴史・消化と吸収、糖質代謝
2	健康食品各論Ⅱ	脂質代謝、アミノ酸・タンパク代謝
3	健康食品各論Ⅲ	ビタミン・ミネラル
4	健康食品各論Ⅳ	電解質と水の代謝、エネルギー代謝
5	疾患と栄養Ⅰ	肝疾患・腎疾患・胃腸疾患・膵臓疾患等
6	疾患と栄養Ⅱ	肥満・糖尿病・高脂血症・動脈硬化等
7	疾患と栄養Ⅲ	高血圧・貧血・関節炎・老化等
8	疾患と栄養Ⅳ	栄養アセスメントとNST
9	健康食品総論Ⅰ	食品の機能・健康食品の現状
10	健康食品総論Ⅱ	健康食品の摂取における問題点、安全性
11	健康食品総論Ⅲ	保健機能食品・栄養機能食品
12	食品の安全性Ⅰ	健康食品の品質管理・食品衛生学、食中毒
13	医薬品と食品の相互作用	医薬品と食品の相互作用、病気の診断手順
14	疾患と病態解析	疾患予防と病態解析、疾患と臨床検査
15	疾患と病態解析	免疫・抗酸化作用・血液の働き

《専門教育科目 専門》

科目名	病態解析学				
担当者氏名	石田 誠子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。	◎ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。	◎ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。	◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。

《授業の概要》

臨床検査は、その分析技術が発達する一方でその検査をどのように生かすかということが重要になってきた。その方策の1つは、臨床検査データに付加価値をつけることである。臨床検査技師自身が健康の意義や病気のことを熟知して、患者さんの検査データを解析する必要がある。このような目的で検査データをもとに症例を検討していくことにする。

《テキスト》

櫻林郁之介・水口國雄 編集
ラボカンファレンス「臨床検査の診かた・読みかた・考えかた」医歯薬出版

《参考図書》

各種プリント(各種疾患の症例・検査結果)

《授業の到達目標》

①実際の症例毎に必要な検査を計画することができる。②種々の検査を組み合わせることで多面的に病態を考える事ができる。③症状と検査結果から患者の病態を総合的に把握することができる。

《授業時間外学修》

事前学修(15分):配布された症例プリントに目を通し、その症例についての異常検査値や病態について検討する。
事後学修(20分):毎回行う症例についての確認小テストの解答を解析、演習問題解答を再確認する。

《成績評価の方法》

平常点70% (小テスト、発表)、期末試験30%

《フィードバックの方法》

定期試験:試験(60分)後に解説(30分)

《備考》

確認小テストの解答(正誤)に沿って関連疾患の病態把握をする。
実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	消化器疾患	消化器疾患における病態説明と検査データの分析 I (膵炎、膵癌、PBC、肝硬変、肝癌の症例を中心に)
2	消化器疾患	消化器疾患における病態説明と検査データの分析 II (偽膜性大腸炎、潰瘍性大腸炎、急性・炎症性大腸炎の症例を中心に)
3	血液・造血器疾患	血液・造血器疾患における病態説明と検査データの分析 I (各種貧血、凝固異常疾患の症例を中心に)
4	血液・造血器疾患	血液・造血器疾患における病態説明と検査データの分析 II (白血病、リンパ腫、骨髄腫の症例を中心に)
5	感染症	感染症における病態説明と検査データの分析 I (肝炎、ウイルス感染症、真菌症の症例を中心に)
6	感染症	感染症における病態説明と検査データの分析 II (性感染症、AIDSの症例を中心に)
7	悪性腫瘍	悪性腫瘍における病態説明と検査データの分析 I (婦人科領域の悪性腫瘍の症例を中心に)
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍における病態説明と検査データの分析 II (その他の悪性腫瘍、転移性癌の症例を中心に)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	関係法規・臨床検査技師				
担当者氏名	三島 清司				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ○ 3-69 (態度と志向性) 臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ◎ 3-71 (態度と志向性) 医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 			

《授業の概要》

「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」を中心に医療関係法規や保健・医療・公衆衛生・福祉に関する法律をとおして法の概念を学び、医療関係職種との連携を密にする。

《テキスト》

臨床検査学講座「関係法規」医歯薬出版

《参考図書》

「医療六法」中央法規
各種プリント

《授業の到達目標》

1. 臨床検査技師法規を理解している。
2. 臨床検査技師の職業的問題点を挙げるができる。
3. 問題点を客観的に考察することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業計画の学習内容に記載された語句等の意味を調べておく。(20分程度)
事後学修：学習した文言を積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通す。(20分程度)

《成績評価の方法》

期末試験 (80%)
小試験・発表 (20%)
《フィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	法の概念	憲法と法の関係
2	衛生検査技師法の制定	衛技法から臨技法まで
3	臨床検査技師等に関する法律 I	臨技法の解説
4	臨床検査技師等に関する法律 II	医師法・保助看法との関係
5	医療・保健・福祉 I	医療関係法規の解説
6	医療・保健・福祉 II	薬事・福祉関係法規の解説
7	労働関係法規	労働基準法・保健関係法規の解説
8	臨床検査と医療過誤	検査過誤と臨床検査技師の責任
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	関係法規・健康食品管理士				
担当者氏名	小野寺 利恵				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 4-73 (総合的な学習経験と創造的思考力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力をもつ。				

《授業の概要》

国民の健康食品についての関心が高くなるとともに、健康食品の氾濫や過剰摂取の問題などが浮上してきた。臨床検査技師が病気、検査、健康食品の系統的教育を受けることにより、健康食品に関する正しい知識を得て、適切な利用法の相談など健康食品管理士としての活動が出来るようにする。

《テキスト》

「保健機能食品学」一般社団法人日本食品安全協会

《参考図書》

「医療政策六法」中央法規出版
 「系統看護学講座 栄養学」医学書院
 「系統看護学講座 薬理学」医学書院

《授業の到達目標》

1. 食品の重要性と健康食品の現状と問題点が理解できる。
 2. 医薬品と健康食品（いわゆる健康食品を含む）の違いなど取扱いの概念が理解できる。
 3. 健康食品に関する法規の定義、種類が理解できる。
- 《卒業認定・学位授与との関連》
 医療人として、医療チームの一員として行動できる豊かな人間性と高い倫理観を持っている。

《授業時間外学修》

準備学習：授業範囲は目を通してること
 (15～20分程度)

《成績評価の方法》

1. 試験 (70%)
 2. 課題作成 (10%)
 3. 授業態度など (20%)
- 《学生へのフィードバック》
 試験後、解説を行う。(試験40分、解説20分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	食品とは	食品の機能について
2	医薬品と健康食品	医薬品の定義、医薬品と健康食品の違い
3	健康食品総論	食品・健康食品・保健機能食品の特徴と機能
4	健康食品各論	健康食品に含有される成分の働きについて
5	食品安全基本法、食品衛生法	各法律と健康食品の関係について
6	JAS法、健康増進法	各法律と健康食品の関係について
7	薬事法、景品表示法	各法律と健康食品の関係について
8	計療法、特定商取引法、PL法	各法律と健康食品の関係について
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	検査管理総論				
担当者氏名	石河 健、津久間 秀彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 2-68 (技能)検査マニュアルに従って正確に検査を行い、正しい結果を出すことができる。 ○ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ◎ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

①医療が高度化する中で、「より良い、安全な医療」を提供するためには、全ての医療従事者に情報技術の活用が求められており、医療専門職として必要な医療情報の処理・管理能力について学習する。②臨床検査技師として部門の運営・管理について理解する。また検査データの扱いや精度管理法を学ぶ。更に、最新の検査システムや求められる臨床検査技師の役割についても学ぶ。

《授業の到達目標》

①病院情報システムの目的と効果を理解している。②インシデントレポートの趣旨を理解している。③個人情報の保護と適用内容の概要を理解している。④個人情報を護るための医療者の債務を理解している。⑤検査管理の基本的な概念と重要性を理解できる。⑥臨床検査のデータ管理と精度管理方法が理解できる。⑦検査データの判読とパニック値への対応ができる。⑧臨床検査技師としての在り方を理解できる。

《成績評価の方法》

確認試験での評価 20%
 期末試験での評価 80%
 《試験のフィードバックの方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分。

《テキスト》

オリジナルの講義ノート（ハンドアウトを配布） 検査総合管理学 医歯薬出版

《参考図書》

医療情報（第5版）；「医学・医療編」「医療情報システム編」「医療情報システム編」日本医療情報学会編、篠原出版社
 学習内容に沿ったテキスト（印刷物）を提供する

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスのテーマを確認。テキストなどから用語など理解しておく。（40分程度）
 事後学修：テキスト、配布資料から学んだ内容復習すること。（40分程度）

《備考》

医療現場における情報ネットワークの活用を理解させる。臨床検査データの管理と活用を理解する。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療と情報の関わり	医療における情報の特徴と役割
2	病院業務への情報ネットワーク技術の活用	病院情報システム ①部門システムからオーダーリングシステム
3	病院業務への情報ネットワーク技術の活用	病院情報システム ②電子カルテシステム（目的と方法）
4	病院業務への情報ネットワーク技術の活用	病院情報システム ③電子カルテシステム（具体例）
5	地域医療連携への情報ネットワークの活用	患者を軸とした連携医療 ～遠隔医療と地域医療連携～
6	医療安全と情報ネットワーク技術の関係	医療安全とICTの活用 ～効果と課題～
7	医療における個人情報取り扱いの考え方	個人情報の保護と活用 ①プライバシー保護の歴史
8	医療における個人情報取り扱いの考え方	個人情報の保護と活用 ②個人情報保護法
9	臨床検査の意義	1) 臨床検査の歴史 2) 臨床検査の目的 3) 各検査法の位置づけ
10	検査部門の管理と運営	1) 検査部門の役割と運営方法 2) 検査受付～検査結果報告について 3) 医療安全と感染対策
11	精度管理 I	1) 精度管理の歴史 2) 標準化 3) 精度管理用語について
12	精度管理 II	1) 測定法の評価（精密さの評価、真度の評価） 2) 管理物質について
13	精度管理 III	1) 内部精度管理（IQC） 2) 各管理法の特徴と管理図の見方 3) 外部精度管理（EQC） 4) 結果の解析と評価方法について
14	基準範囲と臨床判断基準	1) 基準範囲の求め方 2) 極端値とパニック値及び対応について
15	検査情報の活用	1) 検査管理システム 2) 統計（感度、特異度、その他） 3) 検査部門・臨床検査技師に求められるもの（総括）

《専門教育科目 専門》

科目名	検査特論Ⅱ				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ○ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。			

《授業の概要》

医療の現場において技術的にも精神的にも信頼される臨床検査技師として社会に貢献するための職業意識を強くもたなければならぬ。そのため、集団及び個々のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育てるための講義・講演および面接指導を行う。

《テキスト》

各種プリント、スライド

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

臨床検査技師に必要な医学素養として、授業に積極的に参加し、また、内容を十分理解することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：①学習内容について自分なりの考えを準備する。(30分) ②臨地実習前確認の手引きにある知識、技術にを復習する
 事後学修：①レポートを書く(30分) ②不足している知識、技術についてできるまで学修する。

《成績評価の方法》

1, 平常点 (受講態度) 20%、
 2, レポート (提出状況、内容) 80%
 ≪レポートのフィードバック≫
 コメントをつけて返却する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論①	臨地実習前実技確認 (3年前期)
2	特論②	臨地実習の心構え (3年前期)
3	特論③	国家試験に向けての勉強の仕方
4	特論④	就職①就職活動に向けての心構え
5	特論⑤	就職②臨床検査技師として働くための心構え
6	特論⑥	就職③面接指導
7	特論⑦	SPI
8	特論⑧	その他
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	検査特論Ⅱ				
担当者氏名	岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-69 (態度と志向性)臨床検査技師としての将来の方向性を認識し、目標実現のために必要な学習をすることができる。 ○ 3-71 (態度と志向性)医療人になることの意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。			

《授業の概要》

医療の現場において技術的にも精神的にも信頼される臨床検査技師として社会に貢献するための職業意識を強くもたなければならぬ。そのため、集団及び個々のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育てるための講義・講演および面接指導を行う。

《テキスト》

各種プリント、スライド

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

臨床検査技師に必要な医学素養として、授業に積極的に参加し、また、内容を十分理解することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：①学習内容について自分なりの考えを準備する。(30分) ②臨地実習前確認の手引きにある知識、技術にを復習する
 事後学修：①レポートを書く(30分) ②不足している知識、技術についてできるまで学修する。

《成績評価の方法》

1, 平常点 (受講態度) 20%、
 2, レポート (提出状況、内容) 80%
 ≪レポートのフィードバック≫
 コメントをつけて返却する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論①	臨地実習前実技確認
2	特論②	臨地実習の心構え
3	特論③	国家試験に向けての勉強の仕方
4	特論④	就職①就職活動に向けての心構え
5	特論⑤	就職②臨床検査技師として働くための心構え
6	特論⑥	就職③面接指導
7	特論⑦	SPI
8	特論⑧	その他
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	臨床検査学総合				
担当者氏名	小野寺 利恵、吉田 誉				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ◎ 1-65 (知識と理解) 基本的な臨床検査法の知識を身につけ、検査機器の測定原理および操作法について理解している。 ◎ 1-66 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な医学的知識を身につけ、臨床検査データの重要性を理解している。 ◎ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

国家試験科目の過去の問題を解説し、今後出題されそうな重要事項について講義する。

<内容>

臨床検査総論、臨床検査医学総論、臨床生理学、臨床化学、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学、公衆衛生学、医用工学

《授業の到達目標》

- ①臨床検査技師国家試験の過去問を理解し説明できる。
- ②学外模擬試験にも対応できる応用力が身につけている。

《成績評価の方法》

演習試験90%

平常点(確認試験、課題等)10%

《試験のフィードバック方法》 期末試験後に解説を行う。(試験60分、解説30分)

《テキスト》

1、2年生で使用した教科書
「臨床検査学講座」医歯薬出版など
プリントを適宜配布

《参考図書》

「Complete+MTシリーズ」日本医歯薬研修協会
「臨床検査技師国家試験問題集」医歯薬出版
「先手必勝！弱点克服完全ガイド」MEDICAL VIEW
「ポケットマスター臨床検査知識の整理シリーズ」医歯薬出版

《授業時間外学修》

事前学修：事前に授業で行う内容に目を通しておく。教科書を読む、配布プリントを行う(1時間程度)
事後学修：まとめのプリントを理解し覚える。演習問題を解き直す。(1時間程度)

《備考》

オムニバスで実施するため、授業日程及び担当者については別途後期開始前に知らせる。補習あり。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国家試験対策	各分野についての国家試験対策
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門》

科目名	臨地実習				
担当者氏名	石河 健、小野寺 利恵				
授業方法	実習	単位・必選	7・必修	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-64 (知識と理解) 臨床検査技師に必要な教養と、専門分野を理解するために必要な科学的基礎知識を身につけている。 ○ 3-70 (態度と志向性) グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。 ○ 4-74 (総合的な学習経験と創造的思考力) 習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。				

《授業の概要》

2年間の学内教育の集大成として3年生で行うのが臨地実習である。近隣の総合病院18施設に分かれ現場の体験を積み重ねることにより、検査の方法やシステムを理解する。また、患者様を中心とし他の医療職種との連携による効率的なチーム医療を学ぶ。実際の検査技術を磨くことはもとより、精度管理を学び使命感も養われることを期待する。人間的な成長をとげることができ、社会での適応能力も培われるものと思われる。

《授業の到達目標》

1、医療現場における臨床検査技師の役割と位置が理解できる。
 2、臨床検査技師の責任、義務と、臨床検査データが医療行為に必要な科学的根拠であることを理解できる。
 3、知識を活用しながら、問題点を客観的に考察することができる。

《成績評価の方法》

実習病院評価 (50%)
 レポート評価 (50%) 実習レポート40%、週間レポート10%
 《フィードバックの方法》
 レポートについて、講評の時間を設ける。

《テキスト》

臨床検査学講座「臨床検査学講座教科書」医師薬出版
 病院側から提供される資料

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：翌日の実習内容を予習しておく。(60分程度)
 事後学修：レポートの残りを仕上げる。習ったことを復習し、ディリーレポートの施設内で書けなかった残りを仕上げる。(60分程度)

《備考》

学外施設の実務家(職員)による指導を受ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨地実習①	一般検査
2	臨地実習②	生化学検査
3	臨地実習③	血液学検査
4	臨地実習④	免疫・血清学的検査「
5	臨地実習⑤	生理機能検査
6	臨地実習⑥	病理学検査
7	臨地実習⑦	細菌学検査
8	臨地実習⑧	輸血・移植検査
9	臨地実習⑨	救急救命センター等見学
10	臨地実習⑩	病院内関連施設見学
11	臨地実習⑪	その他
12		
13		
14		
15		